

一般意見聴取試行の会の報告

1. テーマ

「これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会」をテーマに大津市、木之本町、大阪市において、3回開催した。

2. 趣旨

淀川水系流域委員会では、今後数十年間にわたる琵琶湖淀川流域の河川整備計画を定めるにあたり、住民の皆さまからさまざまな意見をいただけてきました。その結果、多くの方々から意見を寄せていただきましたが、これからの琵琶湖淀川流域の社会を担う次世代の人たちからの意見は大変少ないのが実状です。

その中でも、琵琶湖部会では、琵琶湖の水位の管理方法や丹生ダムの建設、生態系保全や住民参画の方法など、今後長期に亘って影響をおよぼす事業や政策について検討が行われており、21世紀の社会の主役となるべき若い人たちの意見を伺うことは何よりも大切と思えます。

特に、今後の琵琶湖淀川流域の管理には、上下流の連携が必要であるとの認識のもと、琵琶湖沿岸部や高時川流域に住む若い人と、大阪や京都など、琵琶湖の水で生活をしている若い人たちに、今後の琵琶湖の管理やダムのあり方について、自由な意見をお聞かせいただきたいと思えます。そして行政に任せきってきたこれまでの川づくりから「住民参加による主体的な川づくり」への変革の糸口をさぐりたいと思えます。

3. 開催状況

	1	2	3
開催日時	2003年5月25日(日) 13:30~17:00	2003年7月19日(土) 13:30~17:30	2003年8月30日(土) 13:30~17:15
開催場所	大津市	木之本町	大阪市
意見発表者数	6名	6名	5名
自由討論予定時間	60分	90分	100分
一般傍聴者数	90名	166名	86名
出席委員数	13名	8名	15名
備考	進行役は、嘉田委員、村上委員	進行役は、三田村委員、松岡委員	進行役は、寺川委員、山本委員 淀川部会との合同開催

4. 意見発表者

表1. これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会 1 (5/25) 発表者一覧

	氏名	所属
1	金尾 滋史氏	滋賀県立大学大学院 環境科学研究科 多賀町立博物館多賀の自然と文化の館客員研究員
2	市橋 宏文氏	京都精華大学 人文学環境社会学科
3	北山 泰三氏	京都府在住
4	石山 一光氏	京都精華大学 人文学部環境社会学科
5	安東 尚美氏	流域調整室
6	野田 岳仁氏	Youth Water Japan 代表 NPO 法人 世界水フォーラム市民ネットワーク理事 Young Water Action Team 日本代表メンバー など

表2. これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会 2 (7/19) 発表者一覧

	氏名	所属
1	伊吹 浩一氏	滋賀県草津市在住
2	杉本 剛氏	滋賀県東浅井郡湖北町在住
3	永井 正彦氏	余呉町役場
4	中田 重樹氏	滋賀県東浅井郡びわ町在住
5	藤井 孝成氏	財団法人日本気象協会 関西支社
6	村上 悟氏	淀川水系流域委員会 委員

表3. これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会 3 (8/30) 発表者一覧

	氏名	所属
1	安東 尚美氏	流域調整室
2	中森 藤雄氏	滋賀県大津市在住
3	酒井 研一氏	高時川の明日を考える住民大会実行委員会委員長 湖北土地改良区理事長
4	平山 紘一郎氏	大阪・水かいどう 808 事務局長
5	岡内 勝次郎氏	大阪淀川リトルリーグ 事務局長

5. 意見発表者および一般傍聴者からの意見

< 学生の特徴、利点とは >

- ・学生が活動する際の特徴、利点として1.社会的な立場にとらわれない行動や発言ができる、2.様々な専攻、学科の学生と交流がある。3.「国内移入種」が多く、新たな価値観を地域へ生み出すことができる。4.自由に行動できる時間がある。5.若さと行動力がある、の5点があげられる。(5/25 意見発表者)

< 無関心さ、危機意識 >

- ・利害関係者や河川等に興味がある人にしか情報が行き渡っていないのは、琵琶湖や淀川に対する特別な価値観を持たない人々の関心の薄さにも原因があるのではないか。(5/25 意見発表者)
- ・自分が大変だからと強く意見をおっしゃっている方は、他人に無関心なのではないか、上流は下流に、下流は上流にお互いに無関心であると感じた。(8/30 一般)
- ・高度な浄水技術で、水道水がきれいになったことでかえって、淀川の水質に対する世間の関心が薄れたと感じる。(5/25 意見発表者)
- ・交通手段の発達などにより気軽に自然の中に行けるようになったということで、河川に対する危機意識が薄れ、惨事が起こりやすくなったのではないか。(5/25 意見発表者)
- ・100年に1回の大雨が降った場合、対処の仕方が分からず結果として大惨事になるのではないか。被害経験の継承があれば被害を最小限に食い止められるのではないか。(5/25 意見発表者)

< 情報伝達、情報公開を >

- ・学生や若者も流域委員会の議論の場に参加できるようにしてもらいたい。(5/25 意見発表者)
- ・行政の方も、自分達が進めたい事業に都合のいい情報だけを住民に伝えるのではなく、未解決の部分や欠点等もきちんと伝えていただきたい。(8/30 意見発表者)
- ・自分は洪水の怖さを知らずに育ったので、若者に危険を学ばせられるような社会づくりについてもっと議論してほしい(8/30 一般)

< 住民、行政とのつながりを大切に >

- ・本来つながっているべき人と人、人と物、人と自然、人と社会等のつながりが断絶してしまっていることが根本的な問題なのではないか。現代人が失った「つながり」を見直すことが、公共工事の問題を見直し新しい社会をつくりだしていくきっかけになると思う。(5/25 意見発表者)
- ・学生が地元で発見した新しい価値観を地域住民へ伝えるとともに、研究者、あるいは社会人の卵として専門的な研究や提案を行政や様々な研究機関と共同で行うことで、これ

までの行政と地域住民との関係に新しいつながりをつくることができる。(5/25 意見発表者)

・国内移入種がその地域ごとに価値観を見つけ、それを地域で実践し、そこに新たに地域と地域ででき上がった成果を結びつける、という「Think Locally Act Locally Connect Locally」を提案する。そしてその結び役を学生ができるのではないかと思う。(5/25 意見発表者)

・県民は琵琶湖を自分達の生活に密着した形で捉えているのに対し、県外の者はより感動をもって琵琶湖を捉えており、この価値観の違いは何かには使えるのではないか。(5/25 意見発表者)

・本当の災害の恐怖を知っている人の意見を聴いて、後世に伝えていく必要もあると思う。(7/19 意見発表者)

・琵琶湖部会と我々地元との距離があまりにも遠すぎると感じている。流域委員会の中に地元を取り込んで欲しい。我々とともに議論を進めて欲しい。(7/19 一般)

・政府機関12省が総合的に動いておらず、旧建設省に淀川流域都市計画といったものがなかったことが現在の環境問題や市町村の問題となっていると思う。委員会にはこのような角度から議論をしていただきたい。(8/30 一般)

<流域委員会のより積極的な取り組みを>

・若者からの意見が出ないと言われていましたが、関西には土木工学科の学生が多く、大学へのアピールも方法の一つだと思う。(8/30 一般)

若者から意見を聴く方法として、自然教室や、子供や若者の自然観察に関わっているNPO、水フォーラムに参加したグループ等に呼びかけることを提案する。(8/30 一般)

・「渚、河口、内湖を考える若者(あるいは老人)討論会」等のようなテーマで行っていただけないか。(8/30 一般)

・今回は「地域の人々の声」といったテーマで開催していただけないか。(8/30 一般)

<若者や市民や行政の行動を求めて>

・大阪の都市河川を、今後どれだけ以前のきれいな状態に戻せるかは、自分達の川をきれいにしようという市民の意識の向上を図る市民活動と、行政の行動がカギと考えています(8/30 意見発表者)

・水への意識向上の具体策として、2つの提案をしたい。(5/25 意見発表者)

1. 淀川水系流域委員会に世代別の部会として若者部会を設置

2. 「コミュニティー(地域)の水を飲む」マイボトル(水筒)キャンペーン

・若者に何ができるかということを見ると、1. 自由な発想を持ち、面白い提案ができる、2. しがらみを持たないので関係者をつなぐ調整役やさらに若い世代へつなぐ橋渡しの存在になれる、3. 学生や社会人が主体であるので、文系、理系の研究者の卵など様々な主体が刺激しあい、うまくバランスをとって知的かつ文化的な提案をし得る、などが挙

げられる。(5/25 意見発表者)

<安心して暮らせる河川整備を>

- ・現在の治水対策に強い危機感を感じます。安心して暮らせるような治水効果のある河川整備をお願いしたい。(7/19 意見発表者)
- ・大津市民が安心して安全に暮らせるよう、この大津放水路全区間の早期完成を要望する。(8/30 意見発表者)
- ・治水、利水だけでなく、河川や森林の生態系が維持されるような対策の検討が必要である。環境教育の義務化、自然環境保全管理等について具体的な方策を施策として考える必要があると思う。(7/19 意見発表者)
- ・地球温暖化が琵琶湖に与える影響は多岐にわたり、琵琶湖流域の降雨量、治水、利水、環境にどのような影響を与えるかを考えていかなければならない。(7/19 意見発表者)
- ・温暖化による琵琶湖水位の低下を防ぐには、まずは個人レベルでできる温暖化対策をすることが大前提だと思う(7/19 意見発表者)
- ・今の状況を誰も予測できなかった。国の経済も悪化している。そこで誰が悪いという議論をするのではなく、現状に即した対策を考えていかなければならないのではないか。(8/30 一般)

<ダムについての十分な評価・検討を>

- ・ダムについては、治水が環境か、という選択ではなく、治水も環境も農業も土地利用も含めた人間にとっての環境指標によって、トータルに評価していかなければならないと考えている。(5/25 意見発表者)
- ・天ヶ瀬ダム再開発は、琵琶湖周辺の浸水被害を軽減することが目的であるから、既存施設でどの程度の対策ができるかをまず評価していただきたい。(8/30 意見発表者)
- ・この計画にかかる莫大なコストや、鹿跳橋や宇治川の改修に伴う問題、リスクに見合うだけの効果が本当にあるのか疑問(8/30 意見発表者)

<ダムの必要性について>

- ・ダムをつくって100年に1回の洪水に備えることも大切だが、ダムはつくらずに、自然をこのまま残して、琵琶湖で息子を漁師を続けさせてやりたい。(7/19 意見発表者)
- ・下流の者には上流で自然を破壊するダムはむしろ必要なく感じる。高波対策、高潮対策の堤防等を造っていただきたい。(8/30 意見発表者)
- ・丹生ダムは治水、利水、河川環境保全のためだけではなく、貴重な水を生産・保水する山林の保全も目的の1つとしていることを認識頂きたい。(7/19 意見発表者)
- ・人があっての自然だと思う。その保全対策としては、地元ではもう20数年前から、自然保護対策も含めた上でダム受け入れを承知してきた経緯がある。(7/19 意見発表者)
- ・25年前に流域委員会があれば、余呉町も変わっていたと思うし、ダム以外の地域振興策

もあったと思うが、これだけの山林を地元の手で管理していかなければならない。高齢化が30%近い余呉町では、ダムに頼らざるを得ない。私には他に手だてが思い浮かばない。(7/19 意見発表者)

・瀬切れ解消も丹生ダムの目的の1つ。ダムを活かした水質保全と漁業を考えてもらうことはできないか。(7/19 意見発表者)

・丹生ダムが自然環境にとって非常に効果のあるダムだと自信を持っています。一日も早くダム建設に着手して頂きたい。(7/19 一般)

・高時川と姉川の合流点より琵琶湖までは極端な天井川となっており、洪水となると堤防の決壊により家屋は流され田畑は荒廃し、住民は非常な苦勞を強いられてきた。丹生ダム建設事業は、治水対策をはじめ琵琶湖の利水計画に沿った重要な事業として、地域住民も長年協力してきている。早急に結論を出し、丹生ダム建設を進めていただきたい。(8/30 意見発表者)

・仮に、委員会はダムが中止になったとした場合、ダム建設のために買収された広大な土地をどうするのか、自然環境の保全をどのように進めていくのか、委員会では議論しているのか。自然は人の手を加えないと荒れていく一方である。(7/19 一般)

6．総括と評価

<若者からの意見が収集できたか>

- ・若者からの意見発表の申込みは多かったとは言えない。 1、2は、委員の紹介での申込み者が多く、 3は、申込者そのものが不足していた。
- ・意見発表者だけでなく、一般傍聴から意見を収集することで、これまでの流域委員会にはなかった多くの若者から意見を収集できたと言える。
- ・丹生ダムに比較的近い上流部では、一般傍聴者が多く、このような討論会への関心があるが、大阪などの都市部では、関心が低いと思われる。
- ・どのようにすれば若者に関心をもってもらえるか、どのようにすれば川づくりに参加してもらえるか、という課題が残った。

<さまざまな地域から意見を収集できたか>

- ・丹生ダムに近い上流部では、ダム建設に関して、対立する意見があったが、どちらの意見も本質的には、地元をどのように安全で住みよい町にするかを考えているという点では、一致しているといえる。
- ・上流と下流を比較すると、上流部では、ダム建設賛成、下流部では、ダムについては関心が少なく、むしろ河川敷利用に関心が高いと言える。

<会の運営方法について>

- ・3回の進行役は、いずれも異なる委員が担当した。それぞれの委員がそれぞれの特徴を活かした進行を行ったが、まだまだ、十分であったとは言い難い。委員会で、ファシリテーターによる対話集会を提案しているが、このような会を通じて、ファシリテーターの育成や住民参加のあり方について、まだまだ試行錯誤が必要である。
- ・3回の試行の会において、自由討論の時間を変えている。60分では一般傍聴者から、不満の声が多かったが、90分、100分のときには、不満の声は少なかった（アンケート結果参照）。従って、90分程度は必要であったと言える。
- ・試行の会で出された意見をどのように反映させるかについて、検討する必要がある。

参考資料

目 次

琵琶湖部会意見聴取試行の会（2003.5.25 開催）結果概要	9
琵琶湖部会意見聴取試行の会（2003.7.19 開催）結果概要	20
琵琶湖部会・淀川部会一般意見聴取試行の会（2003.8.30 開催）結果報告	31
琵琶湖部会一般意見聴取試行の会(5/25)に関するアンケート 集計結果	32
琵琶湖部会一般意見聴取試行の会(7/19)に関するアンケート 集計結果	40
琵琶湖部会・淀川部会一般意見聴取試行の会(8/30)に関するアンケート 集計結果	47

淀川水系流域委員会 琵琶湖部会意見聴取試行の会（2003.5.25 開催） 結果概要

平成 15 年 7 月 9 日 庶務作成

開催日時：2003 年 5 月 25 日（日） 13：30～17：00

テ ー マ：「これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会」

場 所：大津商工会議所 2 階 大ホール

参加者数：委員 8 名 他部会委員 5 名 意見発表者 6 名 一般傍聴者 90 名

1 試行の会の概要

公募によって選出された意見発表者 6 名に、各 15 分ずつご意見をうかがい、各 5 分程度委員との質疑応答が行われた。その後「若者の視点の特徴とは」「それをどのように社会参加の仕組みにしていくか」という論点をもとに、委員、発表者、一般傍聴者の中で意見交換が行われた。

2 はじめに（琵琶湖部会 嘉田委員）

これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会、というテーマで特に若者を対象とした意見聴取の試行を行う。流域委員会の柱 1 つに、「幅広い意見の聴取」があるが、これまで流域委員会にはなかなか若者の意見が反映されなかった、あるいは意見そのものが出てこなかったという反省があり、本日の会となった。本日は若い方がそれぞれ生活の場でどのように河川や水と関わっているのかについて、自由に多様な意見を聞かせていただきたい。

3 意見発表者からの主な意見

金尾滋史氏（滋賀県立大学大学院）：「現在の琵琶湖・淀川水系において、学生として何が必要なのか、何が実践できることなのか」

・「国内移入種」として滋賀県に移住してきて、滋賀県民と県外の学生の琵琶湖に対する意識の違いを感じた。県民は琵琶湖を自分達の生活に密着した形で捉えているのに対し、県外の者はより感動をもって琵琶湖を捉えており、この価値観の違いは何かに見えるのではないかと思った。また、「犬上川プロジェクト」というサークル活動を通して見つけた学生の利点や可能性について話したい。

・学生が活動する際の特徴、利点として、1. 社会的な立場にとらわれない行動や発言ができる。2. 様々な専攻、学科の学生と交流がある。3. 「国内移入種」が多く、新たな価値観を地域へ生み出すことができる。4. 自由に行動できる時間がある。5. 若さと行動力がある。以上の 5 点があげられる。

・現在、河川整備計画について様々な議論がなされているが、利害関係者や河川等に興味がある人にしか情報が行き渡っていないように思える。それは、琵琶湖や淀川に対する

特別な価値観を持たない人々の関心の薄さにも原因があるのではないか。

- ・学生が地元で発見した新しい価値観を地域住民へ伝えるとともに、研究者、あるいは社会人の卵として専門的な研究や提案を行政や様々な研究機関と共同で行うことで、これまでの行政と地域住民との関係に新しいつながりをつくることができる。
- ・「Think Globally Act Locally」という言葉があるが、国内移入種がその地域ごとに価値観を見つけ、それを地域で実践し、そこに新たに地域と地域ででき上がった成果を結びつける、という「Think Locally Act Locally Connect Locally」を提案する。そしてその結び役を学生ができるのではないかと思う。
- ・流域委員会の議論や提言は学生にもわかりやすいものにして欲しい。また、学生や若者も議論の場に参加できるようにしてもらいたい。

(主な質疑応答)

- ・サークル活動の課題について教えて欲しい。(委員)

学生は4年または6年で世代交代があり、そこで意思が引き継がれない場合がある。意思をつなげるとともに足りなかったところは次の者が補っていく形で発展し続けることが理想的だが、なかなかそこまで意思が伝わらないというのが現状である。(発表者)

- ・流域で生活する者は生活に密着する余り近視眼的なところがある。その一方で、流域外から来た者には無責任な面があるのではないか。どちらがより責任をもって客観的に流域を捉えることができると思うか。(委員)

そこで生活している住民に見えないものを外から来た者が補い、外から来た者には分からない良さや厳しさを生活住民が教えるべき。それぞれの立場で互いに責任をとるということだと思う。どちらに比重がかかるかは地域によって異なるのではないか。(発表者)

市橋宏文氏(京都精華大学):「琵琶湖をはじめとする自然環境と私たちが共存するには何が必要か」

- ・1999年8月14日に神奈川県の大井川で起こった事故(キャンプに来ていた人々が大雨とダムからの放水などによる急激な増水で流された)は、自然と人間の距離がある意味では縮みまた別の意味で開いたために起こった惨事と思う。縮んだ距離と言うのは交通手段の発達などにより気軽に自然の中に行けるようになったということ。他方、開いた距離というのは、本来、危険性に満ちた真の自然の姿に対する認識が薄くなっているということである。
- ・ダム建設において、100年確率という言葉を目にする。これには、運が良ければ何の災害も経験せずにそこに住み続けられる、というメリットがあるが、デメリットとしては、水害の経験を継承することが難しくなり、その100年に1回の大雨が降った場合、対処の仕方が分からず結果として大惨事になるのではないか、ということがある。
- ・伊勢神宮は20年を一つのサイクルとして遷宮を行っている。これにはその遷宮に関わる

全てを経験として次の世代に引き継げるというメリットがある。水害ということにおいても、このような経験の継承があれば被害を最小限に食い止められるのではないか。今後、私たちに必要なのは自然やあらゆるものとの距離を縮めて自分のものとする、経験を通して知識を自分のものにしていくことだと思う。個人的には、小さな頃から親に連れられて NETS という河川調査をする団体の活動に参加してきたことが環境への興味を抱く貴重な経験となった。将来の世代にそのような経験を伝えることも重要であると認識している。

(主な質疑応答)

・NETS の活動のどのようなところを伝えたいのか。川と接することの楽しさはどこにあるのか教えて欲しい。(委員)

自然を体験するという事全て、つまり自然の中で川遊びをしたり、どこにどんな生物がいる等を調べる事全部が貴重な体験であったと思っている。(発表者)

・活動の中で、川にいる魚に変化が起こっていることも感じたのではないか。気になる場所はないか。(委員)

短い期間だと数ヶ月で、同じ場所を調査してもとれる魚の種類が全く変わっていたり、工事されて川の雰囲気が変わっていたりということを経験した。家庭排水がそのまま流れている汚い川を見てきているので、朽木などの山間のきれいな川が印象的だった。(発表者)

・小川でのブラックバスの発見の話があったが、小さい川での繁殖は考えられない。誰かが釣ってきたものを一時的に放流した等が考えられるが、どう思うか。(委員)

ほとんど琵琶湖の近くでしか見ることがなく河川で見たことに驚いた。おっしゃる通りではないかと考えている。(発表者)

最近山間溪流に外来魚が出現するという事はあちこちに起きている。アユなどの種苗放流に伴って入ってきたと考えられる。(委員)

北山泰三氏 : 「琵琶湖・淀川流域における水質および底質の浄化、保全について」

・一時期大阪の水は臭くてまずいと言われていたが、現在では高度な浄水技術で水道水は処理されており、また家庭用の浄水器やミネラルウォーターも普及し、飲み水に文句を言う人は少なくなった。しかし、そのことでかえって淀川の水質に対する世間の関心が薄れたと感じる。一方で水質の悪化は生態系に悪影響を及ぼし、生き物の少ない魅力のない川になり、ますます関心を遠ざけている。

・25 年ほど前には、大津の辺りでは水面下にたくさんの小魚が群れており近くで泳いでいる人もいた。しかし、7、8 年前から急に釣れなくなり、南湖のほとんどの場所で茶褐色の濁りが見られ、ヘド口の堆積で砂底が少なくなったと感じている。雑排水の処理不足による自浄作用、希釈効果の限界ではないか。河川のように流れが速くないので堆積物がたまりやすく、それに伴った二次汚染や富栄養化も心配される。淀川、寝屋川、神崎川の下流でも生活排水や工業排水の影響がヘド口の堆積が目立ち、水質、底質ともに

ひどい状態である。

- ・現状では法規制に頼っても自浄作用に頼っても生物が快適に生息できる河川湖沼が復活するとは限らない。他県でもホテイアオイを使った浄化の試みなど、自然環境を回復しようとする様々な動きがある。専門家のアドバイスを仰ぎ、現状をよく把握したうえで長期的な計画をたて、また技術的な検討もしていくべきである。
- ・委員会は、負の遺産を将来に残さないという確固とした態度で無意味な自然破壊を防止し、河川に対する思いを代弁する存在であって欲しい。

(主な質疑応答)

- ・大阪の水はまずい、臭いという話があったが、今はよくなったのか。(委員)
よくなったと思う。活性炭処理等されていると聞いている。(発表者)
- ・水が比較的よくなった、またミネラルウォーター等が普及したことで川に対する関心が薄くなった、ということについてもう少し具体的に話してほしい。(委員)
大阪の水が臭い等のうわさがあった時には、一般の人にももう少しきれいにしないといけない、という意識が働いたと思うが、普通に過ごしていてもおいしい水が手に入るということで、淀川から水をとっているということを意識しなくなる気がする。(発表者)
- ・改善されたことで関心がなくなる。先ほどの100年確率の話にも共通する問題提起だと思うが、では大阪のその臭い水を、自分達の生活の帰結だから我慢しよう、と耐えられるか。(委員)
飲み水として考えると、耐えられないと思う。(発表者)
- ・ビオトープに対してどのようなイメージをもっているのか。河川工事にビオトープを採用したという例を挙げているが、具体的にはどのようなものなのか。(委員)
ある程度自然の流れに任せ、人間と自然が両方で作るものだと思っている。河川の適当なところに大きな玉石等を置くだけで、2、3年後には自然に砂が堆積し草が生えていったということを聞いた。(発表者)

石山一光氏(京都精華大学):「『つながり』の再生を目指す - 公共事業の問題点をめぐって - 」

- ・昨今、公共事業の問題が多く指摘されているが、本来公共事業とは、国民の幸せを向上させるために税金を使って何か事業をしようというものだとは認識している。公共事業の問題点として、1.公共事業そのものの問題；建設地域での自然破壊やその必要性、財政負担など2.間接的影響、特に政治的影響があげられる。公共事業の中でも特に非難の多いダム建設、例えば丹生ダムについて見ると、まずその必要性に疑問が生じている。当初計画の柱であった利水の必要性は低くなり、治水効果についてはダム以外の方法がほとんど検討されていない。このような状況でもあえて建設にこだわるのは政治的影響もあるのではないかと思われるが、残念ながら政治的な問題で私たちの目に触れる情報はほとんどない。

- ・日本は経済的に裕福で生活水準も高いと言われているが、公共事業をめぐる問題を考えた時、文化的、思想的な水準は低いのではないかと感じる。そのような人間が権力の大勢を占めている構造自体が問題であるが、一般市民が目先の利益・便益を追求する余り、このような構造が生まれたのではないかと思う。そこで、経済至上主義や権力の集中が原因となり現代人が失ったものを見直すことが、公共工事の問題を見直し新しい社会をつくりだしていくきっかけになると思う。
- ・失ったものとは、「つながり」であると私は考えている。本来つながっているべき人と人、人と物、人と自然、人と社会等のつながりが断絶してしまっていることが根本的な問題なのではないか。友人を思いやる、自然を大切にす、上流と下流の人がお互いの生活を考える等のつながりがなくなったために、くだらない公共事業だけが日本を救うと言う考えを生み出し、権力者は保身に邁進する状況となっている。
- ・今の日本を住みにくくしたのは大人たちである。大人たちが何十年も前に見た夢や希望を若い世代に押し付けないでほしい。大人たちの作った基準では幸せにはなれない。もっとシンプルにつながりを大切にできる世の中になることが自分だけでない全体の幸せをつくる方法だと思う。私は以前建築業界で働いており、会社の利益のみを追求するやり方を目の当たりにしたし、自分も参加もした。ただ批判するだけでなく、環境を悪化させてきた当事者として反省し、環境保全のための適切な判断や行動をし続けなければならないと考えている。

(主な質疑応答)

- ・若い世代が具体的に何をしようとしているのか聞きたい。(委員)

若者世代に限らないことだが、関心の低さや問題意識の低さが大きな問題であると思う。若者として、疑問を感じている者として、問題を認識しているという責任があると思っており、若者に限らず多くの人に提言をしていきたい、行動するのは個人であると思っている。(発表者)
- ・悪政、政治を変えたいという若者らしい意欲はないのか。(委員)

文句を言うだけで何もしないのは自分のポリシーに反するので、国政とは言わな
いまでも、何らかの形で世の中を変えていくためにできるだけことはしていきたい。(発表者)
- ・ご発言の内容は、私たちが若い頃には普通の意見であったが、おそらく今は少し乱暴に聞こえるのではないか。そのような若者からの発信が少なくなっていることが問題とを感じる。(委員)

安東尚美氏(流域調整室):「天ヶ瀬ダムの再開発について」

- ・ダムの放流量増による治水効果と内湖再利用や森林の保全、遊水池や水田での貯留による治水効果を比較した場合、河川管理者の結論としては、ダムの放流量を 1500m³/s にすることに代わりうる手段はなく、昭和 36 年 6 月洪水を計画規模に引きのばして、水位上昇を 16cm 下げるためには、天ヶ瀬ダムの再開発が有効としている。しかし、16cm の水

位低下は資料を見る限り、約 3m 以上琵琶湖の水位が上昇した場合の値である。

- ・天ヶ瀬ダム放流能力の増強させるために、天ヶ瀬発電所や旧志津川発電所のトンネルを利用することを検討中とのことだが、下流の治水効果というより、ダム堤体の安全に効果があるくらいだろう。
- ・特定都市河川浸水被害対策法案では、避難訓練の実施や工事用の暫定調整池を恒久調整池にする等対策が盛り込まれている。豪雨による増水時やダム放流の危険さと治水を生活空間に取り込むことについて住民が知りたいと思うような仕組みづくりが大事だ。
- ・治水か環境か、という選択ではなく、治水も環境も農業も土地利用も含めた人間にとっての環境指標によって、トータルに評価していかなければならないと考えている。

(主な質疑応答)

- ・住民にとって、より近い治水にしていかなければならないという内容だったと思うが、もう少し詳しく説明して頂きたい。(委員)

わかりやすい治水にしてほしいと思っている。例えば、河川管理者が「ダムがあったから洪水が起きなかった」と説明する時には、そのことについてより詳細な説明が必要だ。(発表者)

- ・個人的な意見だが、自然が自ら要求した水域である沓瀬源・巨椋池を干拓した代償を人間は支払わなければならない。その代償について考えてこなかったツケが回ってきているのだろうとおもう。そういった意味から言えば、単に内湖を復元するだけではなく、自然が要求する内湖を復元することが大切だと思っている。(委員)

干拓地に住んでいる人は、浸水する覚悟をもって住むことも必要だと考えている。現地で高上げた住宅も見てきた。(発表者)

野田岳仁氏 (Youth Water Japan 代表): 「『これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会』への提言; 1. 流域委員会に世代別委員会を設置 2. 『コミュニティの水を飲む』マイボトルキャンペーン」

- ・社会の中の若者の位置づけ、様々な物事を決めるときに若者の意見がどのように反映されるか、ということが私の活動の課題となっている。若者に何ができるかということを考えると、1. 自由な発想を持ち、面白い提案ができる、2. しがらみを持たないので関係者をつなぐ調整役やさらに若い世代へつなぐ橋渡しの存在になれる、3. 学生や社会人が主体であるので、文系、理系の研究者の卵など様々な主体が刺激しあい、うまくバランスをとって知的かつ文化的な提案をし得る、などが挙げられる。その中で、自分達にもすぐできることがあるのではないかという視点から、将来への責任を考えていくことが大事だと思う。また、若者は若者に受けるような手法等を持っている、ということもメリットとして挙げられる。
- ・今回「第3回世界水フォーラム」という国際会議があり、水に対する意識が非常に高まった。しかし、その後何をやるかという具体的な動きにはなかなかつながっていないと感じている。そこで、この淀川水系流域委員会でも、流域から考え直すという意味で水

フォーラムのフォローアップが進められるのではないかと考えている。そのために、以下の2つの提案をしたい。

1. 淀川水系流域委員会に世代別の部会として若者部会を設置

流域委員会は、様々な分野からは委員が選出されていると思うが、世代の偏りが強く、若い世代の意見が落ちていると感じる。住民参加部会の中に若者部会だけでなく、世代別で主婦層や子ども部会等を設置し、議論することを提案する。若者主催のNGO等では意見を反映させられる場がなかなかないので、そのようにオフィシャルな形で参加プロセスが明確になると若者も意欲をもって参加できると思う。

2. 「コミュニティ（地域）の水を飲む」マイボトル（水筒）キャンペーン

これまであまり参加のなかった多くの若者や主婦層なども巻き込んでいくべきであり、そのために、わかりやすく誰でもできるようなイメージ戦略的キャンペーンを展開する必要がある。そこで、輸入された海外の水を飲むことや環境負荷の高いペットボトルの消費に対する代替案として、マイボトル、水筒を持ってコミュニティの水（水道水や神社の湧き水等）を飲むことを提案する。それだけでは若者には受けないので、街中のカフェで入れられる等企業の方々とも相談しながら考えているところである。気軽にコンビニでエビアン等のペットボトルを買っては、自分の飲んでいる水がどこから来るのか意識せず、その水源との心理的な距離が広がってしまう。

（主な質疑応答）

・流域委員会の平均年齢が高すぎるというのはもっともな意見と思うが、世代別部会に分けることには賛成できない。様々な専門の方や世代の違う方々と一堂に会して話をする事で視野も広がり勉強になる。様々な世代、立場の人がそれぞれの立場を主張し合い、お互いを理解していき、一緒に今後を考えていく方が立場でグループを作るより意義が大きいのではないか。（委員）

最終的にはそのようになればいいと考えているが、現状では若者がそういった議論をするのが難しいと感じており、今のような提案をさせてもらった。（発表者）

・住民参加部会に入ると住民の意見の反映方法ということに限った議論になるので、より広い、例えば利水や環境、治水といった視点をもって活躍してほしい。（委員）
では、利水、治水、環境の中にまた世代別部会を設けるか、あるいは妥協案として若い委員を増やす等の仕組みを確立してほしい。（発表者）

・流域委員会の提言を見て様々な意見が来ているが、提言だけ見て文句を言わずにまず委員会の傍聴に来なさい、と言いたい。なぜ若者の傍聴がないのか、それは大きなキャンペーンがなかったことが原因なのか。（委員）

水フォーラムで、水問題に対する意識が高いのを感じたが、その中でも流域委員会の存在は知られていない。若い人に届くメッセージは投げられていなかったと感じている。（発表者）

・若い人の現状についてももう少し聞きたい。また、委員会にそれほど期待することは

ないと思う。大事なのは自分達の場で活動することで、そこから委員会や河川管理者とやりとりしてはどうか。(委員)

本音としては、私も若者がもっと頑張ってもらいたい、と思う。水フォーラムがきっかけとなり若い人の参加もあったが、一つのブームに過ぎないという感もある。今回、ユースの水フォーラムを通して、関連イベントで1500人集まったのは一つの大きな成果だと考えている。その中ですぐできることとして提案したマイボトルキャンペーンを持続していくためにも、流域委員会と連携がとればと思う。

また、私はこれまでNGOで活動してきて、河川事業や開発の問題等に関わろうとすると、政府と協働するための窓口がないと感じてきた。だからこそ、この流域委員会がその窓口になってもらえるのではないかと思い提案した。(発表者)

4 自由討論

「若者の視点の特徴とは何か」「そういった若者の視点や特徴をどのように社会参加の仕組みに結びつけていくか」という論点をもとに、委員、発表者、一般傍聴者の間で意見交換が行われた。

中村拓氏(一般傍聴者): 大半の人は環境問題について深い関心を持っていないというのが現状だと思う。そういった興味のない方々へのアピールについてどう考えておられるのか、お聞きしたい。私は農学部森林科学科で学んでいるため、先ほど説明された野田氏の活動内容についても知っているが、一般の方々は、そういった情報を得ることができない。

嘉田委員: 2つめの論点に関連しているご意見だと思う。自由でしがらみのない、横つながりができる可能性のある、専門分化していないといった「若者の特徴」を強みだと思われるかどうか、ご意見があればお願いしたい。

金尾氏(発表者): 若者は自由な意見を言えることが強みだと思う。しかし、その強みを若者自身が知らない。私の場合は、サークルや地域活動の中で意見を言うチャンスを得ることができたけれども、多くの人にはチャンスが巡ってきていないのではないかと。自分の意見を言えば、自分の強みに気がつくことができる。そのチャンスを自ら勝ち取るのか、それとも誰かが与えるのかは、個々のケースによって違ってくると思うが、最初はチャンスを与える方が大切だと思う。

市橋氏(発表者): NETSの活動には、物心がつくかつかないかぐらいの頃に、両親に連れられて参加したのが始まりだった。

村上委員: 若いときに、自分が動くことで物事が動いていくという感覚、自分で何かをやって達成するという体験がとても重要で、子どもを伸ばすことができるそういった場を地位なり家族が出発点となっていくことがポイントになってくる。

嘉田委員：環境に関心を持たない方々にどのようにアプローチしていくか。「環境問題」という言葉を使った途端に関心がなくなってしまうという面があるが、もっと他の視点があるのではないかと思う。安東氏は先ほど「治水についてわかりやすい説明を」と発表されていたが、提案があればお願いしたい。

安東氏（発表者）：自治体によって差が大きい。例えば、城陽市では住民にもわかりやすいような浸水想定区域図を配布し、防災訓練等も実施しているが、多くの自治体では雛型に従って作られたものしか用意されていない。また、河川管理者は治水対策の必要性について、イベント等を通じて、わかりやすく説明していく必要がある。

嘉田委員：わかりやすさというのは、社会参加の仕組みづくりのキーワードになる。野田氏は、水フォーラムの出発点として音楽祭を開催されたが、その発送について説明を頂ければと思っている。

野田氏（発表者）：奄美大島の島歌に込められているメッセージが大事だと私たちが伝えるよりも、歌で感性に訴えかける方が何十倍という力になると感じて、多くの人に伝える手段として音楽や映像を使った。環境に関心のない方々にどのようにして伝えていったよいか、私も常に考えている。これは吉野川可動堰の住民団体の例だが、マンガでわかりやすく説明された子ども用のパンフレットの裏側に親に向けたメッセージが書かれており、家に持ち帰った子どもを通じて親に伝わっていた。戦略的に、良い意味で相手をはめていかなければならないし、そのためには、自分でメディアツールを持ち、情報が集まってくるようなスペースを持つことが重要だと思う。

石山氏（発表者）：興味を持っていない方々の共感を得るためには、難しい言葉やデータは必要ない。若者や年寄り、経験者や未経験者といった垣根を取り払って、自分の言葉で、笑いながら楽しみながら共感していければ、何かが動いていくのではないかと思っている。過去に建築会社で勤務していた際に、ゴミ問題を解決しようと行動を起こした時、しがらみや足かせがあって何もできないということもあった。今、学生の立場になったときに、確かに自由に動きやすいと感じる。しかし一方で、組織に属している安心感、バックボーンがあるという安心感も確かにあるだろうと思う。

村上委員：私も組織のしがらみにとらわれている面もあるが、自分のスタンスをはっきりすれば、どの組織に属そうが大丈夫なのではないか。

野田氏（発表者）：常に、自分の中でスタンスを明確にしながら発言していくことで、しがらみから解放された意見が言えるのではないかと思っている。

佐山敬洋氏（一般傍聴者）：若者部会ができたとすれば、部会での議論が環境や生態系に議論が集中してしまうのではないかと思う。治水や利水、ダムについて考えるこ

とができる人が必要だ。

細川委員：若い方には、自分たちには自分たちの価値観がある。これから先の人生で環境とどう関わっていきたいのかをはっきりすることが大事だと思う。

佐山敬洋氏（一般傍聴者）：メディアに目を向けることは間違いではないが、意識しすぎることには疑問がある。流域委員会は、流域の住民が治水や環境について考えていく場なので、必ずしもメディアに訴えかけていく必要はないと思う。

野田氏（発表者）：私がメディアと言っているのは、マスメディアのことではなく、自分たちが伝えたいことを発信するための手段のことだ。マスメディア自身がしがらみを持っているため、事実を伝えられるかどうか疑問をもっている。

酒井隆氏（一般傍聴者）：子ども水フォーラムの子ども宣言をもう一度、しっかりと確認する必要がある。それから、琵琶湖の汚染の問題を考えると、農・工・住を再度見直さなければならない。流域の住民の生き方が、次の世代の子どもたちへのメッセージになる。

瀧健太郎氏（一般傍聴者）：流域委員会の提言には、河川に興味を持っていない人や河川から遠ざかってしまった人の意見、地元の意見が入っていない。それでは、新しい理念がみんなものにはならないのではないかと思う。地元の方は、自分たちの家のまわりのことが、流域委員会で提言されて、それが新聞に載って、面食らっているのではないか。もう一度、提言を作る段階に戻って考える必要があるのではないか。

中村拓氏（一般傍聴者）：環境、治水、利水は難して興味を持つところではないという人が多いと思う。やはり、直接的なアプローチだけでは受け入れられないと思うので、スポーツで自然に関わっている人たちにマナーの向上を呼びかけることで自然環境への意識を高めてもらう等、間接的な手法というのは考えられないか。

桑木光信氏（一般傍聴者）：地元の環境に対する問題意識を向上すること、日本で起きていることと同じ問題が起きないように世界の国々と連携を取っていくことが大事だと考えている。

野田氏（発表者）：本日の会のアウトプットは、どのようにして取り扱うのか。

嘉田委員：本日の結果はホームページ等で公開し、今後具体化する際に部会や委員会で議論することになるだろう。

最後に（琵琶湖部会 川那部部会長）

住民の方々の意見を聴くだけではなくて、反映させるためにどうすればいいのか。公聴会を開催するだけで、反映できるとは到底思えない。本日の会は確かに公聴会ではないが、公聴会を越えているものかどうかはわからない。どうすれば、意見を反映することができるのか、これからもやり方を変えながら、こういった会を開催していく必要が

あると思っている。

また、先日の委員会で「一般意見の聴取反映方法について」という提言が示されたが、これについてのご意見も是非頂きたいと思っているので、よろしくお願いいたししたい。

以上

淀川水系流域委員会 琵琶湖部会 意見聴取試行の会（2003.7.19 開催） 結果概要

平成 15 年 9 月 22 日 庶務作成

開催日時：2003 年 7 月 19 日（土） 13：30～17：30

テ ー マ：「これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会 No2」

場 所：伊香郡民会館

参加者数：委員 8 名、一般傍聴者 166 名

1 試行の会の概要

部会長の挨拶、三田村委員による本日の会の趣旨説明の後、意見発表者 6 名より、各 10 分ずつご意見をうかがい、各 5 分程度委員との質疑応答が行われた。その後、本日の発表内容や丹生ダムについて、委員、発表者、一般傍聴者の間で意見交換が行われた。

2 意見発表者からの主な意見

伊吹 浩一氏：環境教育の義務化や自然環境保全管理等について具体的な方策を（発表内容の概要）

湖北町には、河川改修や圃場整備等によって効率的な農業が行える水田が多くありますが、水生動物がほとんどいないため、自然が豊富だとは思えません。高時川では、夏になると取水等により瀬切れが発生します。滋賀県内の山間部には植林したきり放置されたままの真っ暗な林が目につきます。広葉樹林に覆われた森林に比べて明らかに生物が少なく、これも「自然豊か」とは呼べないものです。琵琶湖湖岸の調査では、水位調節による水位変動等で、ヨシ帯の様相が 1 ヶ月ほどですっかり変わるのを見て驚きました。これらが、人間にとって住みよい環境を作り出すために行われた結果だとは言え、生物の多様性が失われるのは当然の結果だと思います。

治水、利水だけでなく、河川や森林の生態系が維持されるような対策の検討が必要です。環境教育の義務化、自然環境保全管理等について具体的な方策を施策として考える必要があると思います。

（主な意見交換）

・高校を卒業されるまでこの地域で暮らしていたということですが、そのころ、「自然環境」という言葉を普通の暮らしの中で、例えば、家族の方が使っておられましたか。（委員）

そういう言葉は使っていませんでした。大学で学んで、そう言われてみると確かに、湖北町には緑は多かったけれど自然と呼べるものは少なかった、と実感したわけです。（発表者）

・「自然環境」という言葉は非常にあいまいです。「田んぼが自然かどうか」という問いも難しい。どのように思われますか。（委員）

様々な生き物がいる環境が自然だと思います。いつ行っても同じ生き物しかいない、いつ行っても変化のない川は、自然とは言えないと思います。自然には変化がある

ものだと思います。(発表者)

- ・伊吹氏は、湖北町の森に携わって生活できるようになれば、湖北町に戻ってきますか。例えばドイツでは、森林を単なる材としてだけでなく、エネルギーとして利用する等の経済構造ができています。それと同じように、湖北町の森林で食べていけるようになれば、戻ってきますか。(委員)

森林で食べていけるいけないではなくて、生き物が生きていけるようなところに変えていきたいとは思っていますし、いずれは戻りたいとは考えています。(発表者)

杉本 剛氏：息子の代でも漁師が続けていけるような琵琶湖に
(発表内容の概要)

琵琶湖総合開発が始まる前、多くの学識経験者が「絶対に影響はない」と言っていました。それから、たった30年間で琵琶湖の環境が大きく変わってしまいました。アユの遡上が減り、1日で3~5cmも水位が下がって魚の卵が死滅してしまっています。それにもかかわらず、開発完了後の影響調査やモニタリングをしている様子は見受けられません。工事や開発の責任についてもはっきりしていません。我々漁師に謝ってほしいとは思いますが、こんなにも減ってしまった魚たちに謝ってほしい。

ダムをつくって100年に1回の洪水に備えることも大切でしょう。どうしてもダムをつくるというなら、ダムの影響をしっかりと見極めてほしい。しかし、やはりダムはつくらずに、自然をこのまま残して、琵琶湖で息子に漁師を続けさせてやりたいと思っています。

(主な意見交換)

- ・琵琶湖総合開発では、減産補償がありました。確か4割減産の補償だったと思うのですが、漁業の現状からすれば、4割で済みますか。(委員)
4割の減産ではとどまりません。かつては、フナ1kgで2000円程度だったものが、今はその3~4倍していますから。(発表者)
- ・1日で3~5cmも水位が低下するということですが。(委員)
梅雨時に水位が高くなったと思ったら、すぐに、目に見えて水が減っていきます。魚にしてみれば、卵を産んだ場所が次の日には干上がっているわけです。(発表者)
- ・外来魚の影響はどうでしょうか。(委員)
若い漁師が一生懸命捕っていますから、今は外来魚が非常にたくさんいるというわけではありません。ただ、大量に捕った外来魚の中に1、2匹の在来魚も混じっていて、それをそのままにして売っていると新聞等で批判されました。しかし、それはほんのごく一部です。一生懸命外来魚を捕獲したので、ボテが増えてきています。こういう漁師の努力も見えてほしいと思っています。(発表者)

永井 正彦氏：貴重な水を生産・保水する山林の保全も丹生ダムの目的の1つ
(発表内容の概要)

丹生ダムの水源町に広がる広大な森林管理については、地元では昔からその対応に苦慮してきました。木材需要の低迷、担い手不足、過去の製紙会社による立木伐採や近年のスキー場開発などによる民間企業の山林買い付け等によって、山林管理は非常に困難な状況にあります。

地元では、「丹生ダム自然公園」という理念に保全対策を図ることで、民間企業の介入に歯止めをかけているところです。自然に何も手を加えなければ、それで保全できるという考えの委員も一部おられるようですが、自然は手を加えなければ悪化する一方です。水源町のこれからを担うものとしては、丹生ダムによる保全対策を望まざるを得ない状況なのです。しかし、丹生ダム計画は「新たな展開の工事には着手しない」となっており、保全対策にも「待った」がかかっています。丹生ダムは治水、利水、河川環境保全のためだけではなく、貴重な水を生産・保水する山林の保全も目的の1つとしていることを認識頂きたいと思っています。

(主な意見交換)

・山林の保全には様々な形があると思います。岩手県の高齢化の進んだ村、例えば、沢内村や衣川村では、材として森の木は売れないので、木質バイオマスのエネルギーにしていこうということで、具体的な形作りをはじめました。自分たちの地域でつかうだけではなくて、チップやペレットにして売するための工場も出てきはじめています。何とかかつてのより良い森に近づけるための議論が、地域の皆さんの中でありますか。(委員)

バイオマス事業については、立木伐採がダム事業に伴って出てくるので、丹生ダム関連の土捨て場の跡地を利用して進めていこうとしています。また、なんとか後世に森林を伝えていきたいという思いから、「丹生ダム自然公園」という理念で保全対策に努めようということになっています。ただ、丹生ダム建設計画が進んでいませんので、この検討もストップしている状況です。(発表者)

・山も田んぼも、地元の手が加えられて、守られてきました。その手の加え方が変わりつつあります。余呉町は山の町ですから、手を加えながら暮らしを成り立たせる足場として、山をつくっていけるのが大事だろうと思います。委員も、自然に手を加えなければそれでよいとは思っていません。(委員)

人があつての自然だと思っています。その保全対策としては、地元ではもう20数年前から、自然保護対策も含めた上でダム受け入れを承知してきた経緯があります。また、丹生ダムの安全性に関する調査委員会でも安全であると報告され、それをもとにここまで進んできました。山林の管理については、地元で直接携わったものでなければわからない部分もあることをご理解頂きたいと思っています。

(発表者)

・ダムを受け入れてきた地元の方々の思いというのは承知しています。その上で、将来を考えたときに、これまでと同じようなやり方で進めて良いのか、琵琶湖の現状、子どもたちのこれから、地球的な環境問題を考えると、次の世代に引き継ぐ責任を持つ今の世代の私たちが思い切った決断もせざるを得ないと思っています。これまでの国

のやり方は、ダムを受け入れなければ、地域の開発も振興もできないという施策でした。これを根本的に改めなければなりません。ダムがなくとも、森林は保全されなければなりません。ダムに頼らなくても地域が振興していけるための道筋を真剣に考える必要があると思います。(委員)

25年前に流域委員会があれば、余呉町も変わっていたと思いますし、ダム以外の地域振興策もあったと思います。ただ、現実的な問題として、これだけの山林を地元の手で管理していかなければなりません。明日も総出で草刈りに出ます。高齢化が30%近い余呉町では、ダムに頼らざるを得ません。私には他に手だてが思い浮かびません。もしあれば、教えて頂きたいと思います。(発表者)

中田 重樹氏：住環境の保障と治水効果のある河川整備を。丹生ダムは安心を与えてくれる。

(発表内容の概要)

びわ町では、河口から10km以上天井川が続き、その両側には住宅が密集しており、いったん破堤すれば壊滅的な被害が発生してしまいます。昭和50年にこの地域をおそった台風によって、漁具や船が濁水に流され、高さ6mの堤防天端に迫るほど水位が増したそうです。

これを思うと、現在の治水対策に強い危機感を感じます。また、びわ町の場合、河川区域内に堤外民地が存在しており、ここで栽培されている農作物等が洪水時には土砂に埋もれ、壊滅状態になってしまいますし、やなをはじめとする漁業施設への被害も甚大なものになります。

せめて安心して暮らせるような治水効果のある河川整備をお願いしたいと思います。自然環境の保全も大切ですが、それも日々の住人の安全(生命)が確保されていることが前提ではないでしょうか。丹生ダムは少なくとも今よりは生活の安心を与えてくれると信じていますし、安心して安全な暮らしなくしては住み良い住環境はあり得ないと思います。

(主な意見交換)

地域の水防活動について教えてください。びわ町の南浜には自治会の中に水防委員や堤防委員がいて、大雨の時には見回りをするといったことをされていますか。いざというときに、どのような対応をされているのですか。(委員)

びわ町では、水防組織は消防組織とほぼ同一です。町の水防協議会の指示を受けて、各集落の消防団員が水防班となって警戒に当たっています。平成10年に大水が出たときには、いち早く地元の水防団が応急処置にあたりました。(発表者)

よそ者の暢気な話として聞いてください。もしダムができて、安心になれば、水防委員も堤防委員も必要ない、ということにはなりませんか。

若い年代には、洪水に対する恐怖というのはないでしょうから、経験のある私たちが伝えていかなければならないと思っています。そうは言っても、私自身も水防訓練を行ってきましたが、正直、半信半疑でした。本当の恐怖を知っている人の意見

を聴いて、後世に伝えていく必要もあると思います。(発表者)

- ・ドイツでたまたまライン川の氾濫に出くわしたのですが、地域の人たちは、川は氾濫するものだと言って平気な顔をしていました。ライン川の両岸は氾濫源になっているので、そもそも川の考え方が日本とは違っていています。日本でも、川を広い範囲で考えていく可能性もあるのではないかと考えているのですが、どうでしょうか。(委員)

現状の生活がありますので、土地計画から全て見直して生活をやり直す、河川を付け替えるといった発想は、今の時点では生まれてこないでしょう。(発表者)

藤井 孝成氏：地球温暖化の影響を和らげるような治水・利水対策を
(発表内容の概要)

現在、地球規模で温暖化や気候変動が進行し、これまでになかったような出水や渇水が頻発しています。この地球温暖化が琵琶湖に与える影響は多岐にわたり、琵琶湖流域の降雨量、治水、利水、環境にどのような影響を与えるかを考えていかなければなりません。

地球温暖化が琵琶湖に与える環境変化への対策としては、まず、流出量や土砂流出量の変化に対しては森林保全による水源地の涵養が考えられます。それから、干ばつや渇水に対しては、ダムや貯水池の建設が必要になります。次に洪水に対しては、ソフト面では防災意識の向上、ハード面では貯水施設の運用改善や新規建設が対策としてあげられます。琵琶湖の水質変化に対しては、排水施設の整備による汚濁水の流出防止、水生生物による浄化機能の強化といったものが対策として考えられます。

(主な意見交換)

- ・統計等を見ると、確かに降雨量は減少傾向にあるようです。しかし、今年もたくさん雨は降っていますし、実感としてはそれほどの減少傾向にあるのかなと思っています。全国的に雨が減っていると、言い切ることができるのでしょうか。(委員)

過去 10 年間では、各地のダムで水不足や渇水が叫ばれました。年によっては人間の生活に影響を及ぼすような問題が起きています。ただ、年によってバラツキがあります。あくまでも傾向として、雨が少なくなってきているということです。(発表者)

- ・温暖化と少雨傾向によって、琵琶湖の水も減ってくる。何とか解決する方法はないのでしょうか。提案があればお願いします。(委員)

まずは個人レベルでできる温暖化対策をすることが大前提だと思います。それでも、地球全体の温暖化を和らげるのは、非常に難しいので、なるべく温暖化による影響が少なくなるように、例えば、湖の富栄養化を防ぐ対策、河川の流量の変化が少なくなるような対策といったことが必要になってくると思います。(発表者)

村上 悟委員：住民が自ら取り組んでいくことが、自分たちにとって一番幸せなこと
(発表内容の概要)

私の実家の前に流れていた小さな川が、危険な場所だという理由で、県の整備によっ

てコンクリートでフタをされました。私にとっては大事な川だったのですが、私の思いを実際の施策に反映する機会がありませんでした。これと同じことが、琵琶湖についても言えると思うのです。

丹生ダムにしても、本来、ダムの水を使う下流の人たちが、丹生ダムの地元の課題を理解していたのだろうか、本来であれば、流域に住む全ての人と一緒に考えて、共有すべき問題を一部の人が引き受けなければならなくなったことが、問題の根本にあるのだと思っています。

私たちは、利水や過疎の問題を河川管理者に任せてしまったために、そういった問題を共有できませんでした。これからは、河川管理者に、今取り組んでいる問題の中で住民にできることが何か教えてもらって、住民が自ら取り組んでいくことが自分たちにとって一番幸せなことだと思うし、ひいては、それが流域全体の環境や社会にとって大事なことだろうと思っています。

(主な意見交換)

・私たち委員は、地元の方と同じ体温で丹生ダムのことを考えることはできません。ただ、新潟県の奥三面ダムの話が映画になっています。ダム計画によって地元の人たちが移転するのですが、自分たちの歴史や文化をたどりながら、水源地に戻るという映画です。日本の各地域でダムの問題が起きています。この映画が、ダムの地元の人、ダム問題を客観的に考えている人、ダムに関心のない人が繋がる1つの手だてになるのではないかと、ぜひ一緒に見てみたいと思っています。(委員)

・地域社会の自主自立の力が日本をここまで維持してきたのだと思います。私たち委員は時として無責任なことを発言しますし、地元の方と同じ体温では考えられないかもしれませんが、一緒に考えていきたい、考えさせてほしいと思っています。自然の再生は地域社会の再生です。高齢化率30%の湖北の町に若い人たちが戻ってきて、子どもを生んで育てて、50年、100年と繋がっていくような地域の力をどうやってつけるのかということは、ダム以上に大切なことだと思います。(委員)

4 自由討論

「発表の内容」や「丹生ダム」について、委員、発表者、一般傍聴者の間で意見交換が行われた。

ダムと漁業と水質と

鳥塚氏：南浜漁協の組合長をしています。南浜漁協がダムを賛成している理由について意見を述べたいと思います。昨年度、瀬切れが発生して、魚の産卵期に水が全くありませんでした。また、少ない水を農業用水としてとられてしまっています。頭首工までは水があり、用水路には水が流れているのに、それ以降の本川には水が流れていません。琵琶湖全般の河川を見ても同じような状況です。それから、琵琶湖の急激な水位変化によって、温水性魚類が減少しています。昨年度の資源量は例年の3分の1以下という極端な状況でした。このままでは、琵琶湖に漁師がいなくなるのではないかと考えるほど、非常にせっぱ詰まった状況です。できることから少しでも早く改善の手を打って頂きたいというのが、琵琶湖の漁業者の願いです。

琵琶湖の環境悪化について、琵琶湖を職場にしている私たちから意見を聴いてもらっていないという思いを持っています。一度、漁業関係者から意見を聴く機会をつくって頂きたいと思っています。

永井氏：地元においては、長年、丹生ダムについて議論されてきました。しかし、一体いつになったら、しっかりとした河川整備計画が策定されるのでしょうか。河川管理者の説明によれば、一番最初の河川整備計画では、ダムについては、今後も調査検討を続けると記載されるとのことでしたが、これはおかしいと思っています。地元では、ダム計画が延びる度に治水面でも不安が募っていく一方です。山林保全についても先ほど発表した通りです。早く、ダム計画を策定してほしいというのが私たちの要望です。

杉本氏：先ほど委員から琵琶湖総合開発の補償について質問がありましたが、確かに漁師は補償をもらいました。しかし、ほんの一時金です。一生の補償にはなりません。それから、丹生ダムの地元の町では高齢化が30%ということですが、それは漁師も同じです。だからこそ私たちは、NPO 団体等に働きかけたりしています。行政はそういった働きかけをしているのですか。

永井氏：働きかけと言われると、正直、そのようなことはしていません。ただ、瀬切れ解消も丹生ダムの目的の1つです。私個人としては、ダムを活かした水質保全と漁業を考えてもらうことはできないかと思っています。地元としては、ここまでダムを進めてきたので、ダムによる環境保全を検討してもらえないかと思っています。

三田村委員：ダム問題にはさまざまな対立意見があります。河川管理者は、住民意見を河川管理に反映していくと仰っています。ぜひ、さまざまな対立する意見をお聞かせください。

西田氏：余呉町の西田です。保健所でアユの検査等の環境調査をしてきました。保健所を辞めてからも、余呉町の水質調査を中学校の生徒への指導等、琵琶湖の水質改善に関わってきました。余呉町では環境問題への意識が高く、琵琶湖の水質悪化に心を痛めており、余呉湖の深層ばっき装置等のさまざまな対策を行っています。上流の地域も必死に水質改善に取り組んでいるということを報告して、私の意見にかえたいと思います。

杉原氏：京都市の御所の水守りをしています。皆さまは、琵琶湖周辺の治水のためにいろいろな努力をされていると思います。しかし、京都府の知事はダムをつくらないように努力されていると私は理解しており、非常に有り難いと思っています。皆さまもどうぞよろしく願いいたします。

滋賀県に新しくやって来る人達と一緒に考えていくためには？

茨氏：八幡市の三川合流地点の近くに住んでいる大学生です。土木を専攻しており、将来は滋賀県で仕事をしたいと思っています。滋賀県は人口増加率が日本で一番で他府県からたくさんの方が流入してきています。そういった新しく滋賀県

に來られた方と、琵琶湖の自然環境や漁業に関する問題、湯水、防災といったことを一緒に考えていくためにはどうすればいいのか、議論をして頂きたいと思っています。

杉本氏：漁師の意見です。現在の琵琶湖の水質は最低だと言われていますが、まだ魚は生きています。まだ飲めます。しかし、これ以上ダムをつくって、汚れた水を琵琶湖に流していいのか。これで水がよくなるのか。なるわけがありません。それならば、NPOの人たちや地元の人たちが総出で助け合って、山林管理や水質改善に取り組んでいけばいいのではないかと考えています。こうやってしまった以上、頼まれれば、私も余呉町まで下刈りに行かないといけないわけですが、そういったことを考えていかないといけないと思います。

寺川委員：上流の山と湖を繋ぐために、漁師である杉本さんが余呉町まで下刈りに出掛けていくことも必要になってくるんでしょうね。湖で暮らす人たちには山林の実態を見てもらう、山で暮らす人たちには湖に潜ってもらうことで、山から湖への広がりをつくれたらと思っています。茨さんも一度滋賀県に来てもらって、山や湖がどんな状況にあるのかを見て欲しいと思います。

三田村委員：先日、松岡委員からピワマスを分けてもらって学生と一緒に刺身で食べたのですが、「こんなうまい魚があったのか」と言っていました。だからこそ、琵琶湖に魚が住める環境にしていかなければならないと思います。やはり、琵琶湖に来てもらって現状を知ってもらうことが大切だと思います。

嘉田委員：交流として、淀川流域の人たちが総出で、余呉町の草刈りにでるといったことが具体的に提案できればよいなと思います。

余呉町と丹生ダム、環境と開発

谷嶋氏：余呉町の谷嶋と申します。60年前のことを思い出しながら、皆さんのお話を伺っていました。確かに、昔は立派な自然がありました。しかし、時間の経過とともに現在のような姿になったのです。美しい雪解け水が琵琶湖に注ぎ込んでいることも事実ですし、スキー場開発によって濁水が流れていることも事実です。余呉町の人間は、30%近い高齢化率の中で、開発と環境にどう取り組んでいけばいいのか、考えています。開発と環境と地域の活性化は非常に密接な関係にあります。流域委員会も、開発と環境の関係を地元の人間と一緒に見て欲しいと思っています。私は、丹生ダムが自然環境にとって非常に効果のあるダムだと自信を持っています。一日も早くダム建設に着手して頂きたい。

三國氏：余呉町の丹生ダム対策委員会の三國と申します。川那部部会長にお尋ねしたいと思っておりましたが、途中で帰ってしまわれました。丹生ダムについて申し上げたいと思います。丹生ダムについては、用地取得も完了しています。水没住民の移転も終わりました。工用道路もほぼ完了しており、ダム本体工事の直前です。こういう状況の中で、委員会の意見は、ダムについては「原則として建設しない」となっています。果たして、委員会はダムが中止になった後の

ことを考えておられるのでしょうか。自然は人の手を加えないと荒れていく一方です。ダム建設のために買収された広大な土地をどうするのか、自然環境の保全をどのように進めていくのか、委員会では議論されているのでしょうか。もし委員会が議論しようとしているのであれば、地元の私たちも真剣に議論をしていきたいと思っています。

寺川委員：私の考えでは、琵琶湖部会ではダム中止の意見がまとまりつつあると思っています。もちろん、ダムを中止した後のことも議論を進めていますし、委員からも意見が出てきています。ただ、最終的に事業計画を決定するのは近畿地方整備局です。その整備局は、特に水需要の精査確認のために時間が必要なので、今後もダムについては調査検討を続けると言っています。委員会は、ダムを中止するにしても建設するにしても、地元が被ってきた歴史的な経緯や影響、個人の思いに十分に応えていくための仕組みづくりのためにも、地元の方と膝をつき合わせて話し合っていかなければならないと思っています。

嘉田委員：寺川委員は、ダム中止で意見がまとまりつつあると発言されましたが、委員の中でも意見の幅があることを表明しておきたいと思います。私自身は、部会でダム中止の方向で意見が固まりつつあるとは思っていません。人の手を加えなければ自然は守れないというのが永井さんの意見でしたし、村上委員の意見でもありました。自然の再生と地域の再生がどのように繋がっていくのか、そこを探るためのプロセスとして、ここに来ているわけです。個人的には、ダムを止めるべきという決断はしていません。

三國氏：近畿地方整備局が整備計画をつくる等の法的な手続きについては、十分に承知しています。しかし、そういった法的なことよりも、地元で暮らす私たちは、流域委員会の議論になかなか入り込めない、琵琶湖部会と我々地元との距離があまりにも遠すぎると感じています。流域委員会の中に地元を取り込んで欲しい。我々とともに議論を進めて欲しい。そのように思っています。

酒井氏：びわ町の酒井と申します。丹生ダムは、下流の利水のためにも、琵琶湖の水位変動を改善するためにも、瀬切れ解消のためにも、水質の改善のためにも大変有効です。また、高時川は天井川であり、両岸には住宅地が密集しています。堤防はもろく、堤外民地があるため河道掘削もできません。ダム以外の河川改修で治水対策を行うことは、もはや不可能です。安心して暮らしていける町にするためにも、丹生ダム建設は地元の皆さんの念願です。琵琶湖総合開発で約束したダムを建設しない、これから1年も2年もかけて議論をするなんて全くおかしいと思っています。ぜひ、地域住民の長年の念願を叶えて頂きたい。また、治水、利水のためにもダムをつくって、すばらしい整備計画にしてほしいというのが地元の願いです。

渡辺氏：兵庫県から来た渡辺といいます。地元の方のご意見と委員会の意見を聞いたわけですが、ダムのような大事なことは、早急に決めるのではなく、時間をかけ

てじっくりと何度も議論して下さるよう、よろしくお願いします。

丹生氏：余呉町の上丹生の丹生と申します。上丹生はダムが建設されるところです。時間をかけて何度も議論してくださいとの意見が出ましたが、ダムの議論は30年も前から続いています。最初は、安全性の問題、環境の問題、水質悪化の問題等から、もちろん反対しました。何度も何度も議論を続けてきた中で、治水や利水について、有効なダムだという話を聞きながら、徐々にダムを受け入れてきました。環境についても、水田に見られるように、環境は人が係わることによって守られるものであるという考えに立ちます。今まで荒れるにまかせていた地域が、ダムによって、人にとっても動物たちにとっても、有効な環境となることを期待しています。

先ほど、滋賀県に住む人が増えているという発言がありましたが、余呉町は人が出ていく一方です。高齢化も進んでいます。若者が定着するまちづくりは、余呉町に住む者にとって切実な問題です。そのためにはどうすればいいのか、私たちはダムとの絡みの中で考えてきました。地元にとって、ダムは1つの光であり、希望なのです。今やっと、どういうまちづくりをしていくかが見えはじめていくところです。そんな中で、ほとんど唐突に、委員会からダムについては「原則として建設しない」という提言が出てきました。委員の皆さんには、余呉町でどう生きていくのか、どのようにまちづくりをしていくのかと考えている私たちの立場に立って議論をしてほしいと思います。

最後に：委員から

寺川委員：地元の方の思いを語って頂けたと思います。他人事ではなく、本当にこの地域の将来をどうしていくのか、そういう思いを持って、委員として真剣に考えていきたいと思っています。

長い目で見たときには、委員会と地元の方々とは、それほど懸け離れているとは思っていません。本当によい滋賀県にしていくためにどうすればいいのか、住みよい町、住み良い村にしていくためには、どうすればいいのか。私たちは同じことを考えています。30年間もかけてダムを受け入れてきた経緯を思えば、そう簡単にダムを止めることはできないわけですが、将来、もう少し真剣に見直しておくべきだったとということにならないように、話し合いの場を持っていく必要があると思います。

嘉田委員：私は滋賀県が大好きです。だから、もっと良いところになってほしいという思いで、これまでやってきました。決して他人事ではなく、自分の問題として、この地域がどのように次の世代に繋がっていけるのか。当事者である皆さんと一緒に考えていきたいという熱い思いを持っています。今日がその第一歩になればと思っています。良いチャンスをありがとうございました。

藤井委員：ここに来て、皆さんのお話を伺えて、本当に良かったと思っています。決して

他人事だと思っていないから、ここに来ました。

この地域が再生するためには、自立できなければなりません。私は国のバイオマスのエネルギーチームに入っているのですが、最大のテーマは、農業の活性化と農村漁村の活性化です。この地域で食べていける仕組みを考えながら、丹生ダム問題に関わっていきたいと思っています。

倉田委員：琵琶湖には、手ですくうことができるほどの魚がいました。川をコンクリートで固めたこととダムが大きな原因によって、漁獲量は激減してしまいました。今後も、これまでと同じ流れを踏襲しては、絶対に駄目です。漁業が全くできなくなってしまいます。ダムは本当に慎重に考えなくてはならないのです。どういう形で、地元の皆さんと協力しあい、話し合っていけるのか。簡単にはいれないと思います。やはり十分に時間をかけて検討していく必要があると思っています。

村上委員：若者が住んでいける町をどうやってつくっていけばよいのか。地元の方も委員会も同じ思いでいることが確認できて良かったと思います。インフラが整備されているから、ということではないと思います。この地域で食べていける、この地域で仕事を持って生きているという誇りが持てるかどうかだと思います。他人に与えてもらった環境の中で生きているだけでは誇りは持てません。自分の手足で、いろんな人と力を合わせながら生きているという実感が必要だと思います。ここで仕事ができなければ駄目なのです。

先ほど、「ダムは1つの光であり、希望なのです」と発言されていましたが、私は、やはり、人にこそ光があると思います。

松岡委員：今日、お話を聞いていて、誰もこの地域を悪くしようなんて考えていないと思いました。みんな、一生懸命良くしようと考えています。できるだけ、失敗のないように、間違いのないように、いろいろな立場から考えていく必要があると思いました。

三田村委員：杉本さんのお話を伺って、琵琶湖総合開発の失策の部分の責任の取り方について、考えました。学識経験者が責任をとらなかったと仰りました。私たち流域委員会も今後意見を言っていきます。私たちの意見が整備計画に反映されたときの責任の取りよう、それを投げかけられたのだと思います。もちろん、住民の皆さんも将来の自然や環境について責任を持って行かざるを得ない。そういう時代が来たのだと思います。自分自身の生き方を見直す作業からはじめるのが、本当の河川管理なのだと思いました。

本日参加してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

以上

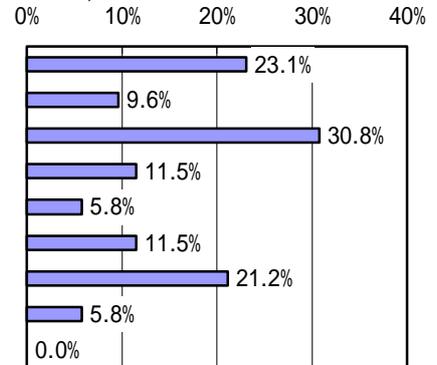
<p>琵琶湖部会・淀川部会一般意見聴取試行の会(2003.8.30 開催)結果報告 テーマ：これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会 No.3</p>	<p>2003.9.4 庶務発信</p>
<p>開催日時：2003年8月30日(土) 13:30~17:15 場 所：大阪会館 Aホール 参加者数：委員15名、一般傍聴者86名</p>	
<p>1 本日の試行の会について 寺川委員から淀川水系流域委員会の役割と本日の会の趣旨について説明が行われた。</p> <p>2 一般からの意見発表と質疑応答 5名の発表者から各10分意見発表が行われた後、委員との質疑応答が各5分行われた。</p> <p>安東尚美氏(流域調整室) 発表内容：天ヶ瀬ダムの再開発は琵琶湖の浸水被害の軽減を目的とするのだから、放流量を1500m³/sに増やすことにこだわらず他の対策もよく検討すべき。既存施設を活用した場合どこまでできるのか、流下能力等の数値も出してほしい、など</p> <p>中森藤雄氏(滋賀県大津市在住) 発表内容：現在整備計画には大津放水路は一期区間のみ継続と明記されているが、二期区間についても都市機能及び歴史資産が集積しており、浸水による被害が大きい区域である。大津市民が安心して生活できるよう、大津放水路全区間の早期完成を要望する、など</p> <p>酒井研一氏(高時川の明日を考える住民大会実行委員会委員長、湖北土地改良区理事長) 発表内容：丹生ダム建設事業の見直し案は、長年丹生ダム建設事業に協力してきた地域住民に配慮を欠いた決定だ。当該地域が洪水災害に悩まされている実態を知り、住民が安心して生活を営めるよう早急に結論を出し、丹生ダム建設を進めてほしい、など</p> <p>平山紘一郎氏(大阪・水かいどう808事務局長) 発表内容：現在都市河川はかなり汚染されているが、アピール効果も含め、まず大阪のシンボル道頓堀をきれいになりたいと考え様々な取り組みを行っている。昔はきれいであった川を回復させるためには、市民の意識の向上を図る市民活動と行政の行動がカギとなる、など</p> <p>岡内勝次郎氏(大阪淀川リトルリーグ事務局長) 発表内容：現在消えようとしている淀川の高水敷の多目的グラウンドを使用している当リーグからは才能ある選手も多く排出しており、また川辺の清掃等を実行し大切にに使わせていただいている。堤内地の学校も使わせてもらえない現在、高水敷を引き続き使用させてもらいたい。下流の者には上流で自然を破壊するダムはむしろ必要なく感じる、など</p> <p>3 自由討論 「発表の内容」や「上下流の意識の違い」等について、委員、発表者、一般傍聴者の間で意見交換が行われた。中でも、特に若い世代の傍聴者に積極的に意見が求められた。</p> <p><主な意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は洪水の怖さを知らずに育ったので、若者に危険を学ばせられる社会作りをしてほしい。 ・ダムに関して様々な考え方があることが当然であり、まとめることは難事業だ。このような調整の場を設けたこと自体が大きなことと思う。 ・高時川流域は洪水の一方で濁水にも苦しめられており、解決にはダムを作り一年中定量の水を流してもらう以外の方法は考えられない。 ・今回若者の参加が少なかったが、関西には土木工学科の学生が多いので、もっと大学に声をかけるべき/自然教室、水フォーラムに参加したグループ等に呼びかけてはどうか。 ・国土交通省にできることには限りがある。ダム建設の問題にしても、全て行政に任すのではなく、お互いにできることをすべきではないか。 ・上流は下流に、下流は上流にお互いに無関心であると感じた。若い世代も無関心だから参加がない。 ・本日の会を通じて、上下流の対立が見られた。コーディネーターの役割を委員が果たせたか疑問。若者の会としながら年配者が開催していたことも含め、河川管理者は今回の会を反面教師としてより良い対話集会をしてほしい。 など <p style="text-align: right;">以上</p>	

このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」を参照下さい。

淀川水系流域委員会 琵琶湖部会一般意見聴取試行の会(5/25)に関するアンケート 集計結果

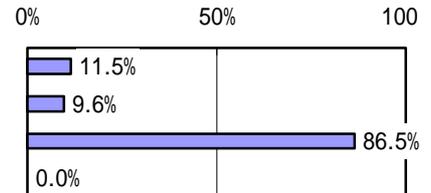
Q1. 本日、この会に参加いただいたきっかけを以下から選んでください(複数回答可)

項目	件数	構成比
1 委員から案内された	12	23.1%
2 知人(委員以外)から案内された	5	9.6%
3 庶務から案内チラシが届いた	16	30.8%
4 流域委員会会場でチラシを見た	6	11.5%
5 市役所など公共施設でチラシを見た	3	5.8%
6 行政関係者から案内された	6	11.5%
7 インターネットホームページ	11	21.2%
8 その他	3	5.8%
n 無回答	0	0.0%
回答者数	52	100.0%



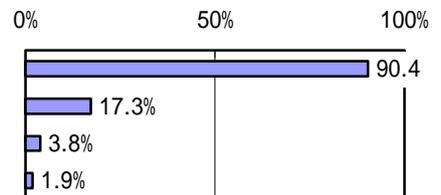
Q2 - 1. 実施する曜日と時間について(複数回答可)

項目	件数	構成比
1 平日の昼間がいい	6	11.5%
2 平日の夜がいい	5	9.6%
3 土・日・祝日がいい	45	86.5%
n 無回答	0	0.0%
回答者数	52	100.0%



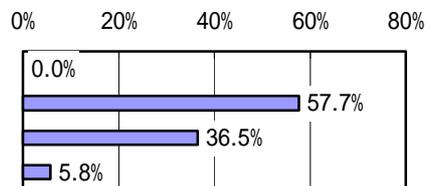
Q2 - 2. 実施場所について(複数回答可)

項目	件数	構成比
1 街中の交通の便がよい所がいい	47	90.4%
2 川の近くなど自然に触れあえる所がいい	9	17.3%
3 その他	2	3.8%
n 無回答	1	1.9%
回答者数	52	100.0%



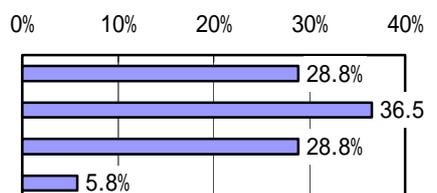
Q2 - 3. 自由討論の時間(60分程度を予定)について

項目	件数	構成比
1 長い	0	0.0%
2 適当である	30	57.7%
3 短い	19	36.5%
n 無回答	3	5.8%
回答者数	52	100.0%



Q2 - 4. 本日の琵琶湖部会一般意見聴取試行の会の運営方法について

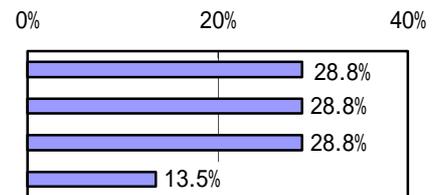
項目	件数	構成比
1 満足している	15	28.8%
2 どちらとも言えない	19	36.5%
3 やや不満がある	15	28.8%
n 無回答	3	5.8%
回答者数	52	100.0%



Q3. 本日の琵琶湖部会一般意見聴取試行の会の内容についてお伺いします

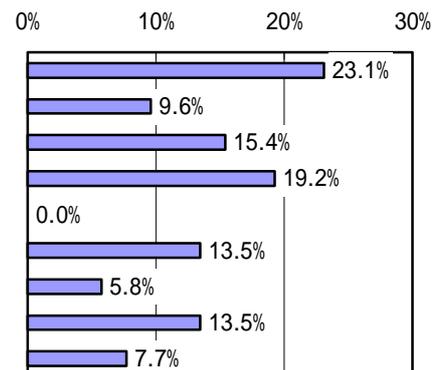
Q3 - 1. 本日の一般意見聴取試行の会を通して、満足されましたか。

項目		件数	構成比
1	満足している	15	28.8%
2	どちらとも言えない	15	28.8%
3	やや不満がある	15	28.8%
n	無回答	7	13.5%
回答者数		52	100.0%



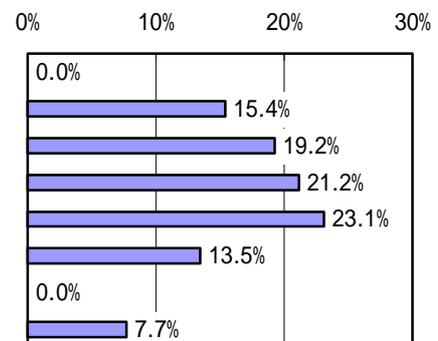
Q5. [職業](複数回答あり)

項目		件数	構成比
1	公務員(河川関係者)	12	23.1%
2	公務員(その他)	5	9.6%
3	NPO等関係者	8	15.4%
4	会社員・会社役員	10	19.2%
5	自営業	0	0.0%
6	学生	7	13.5%
7	主婦	3	5.8%
8	その他	7	13.5%
n	無回答	4	7.7%
回答者数		52	100.0%



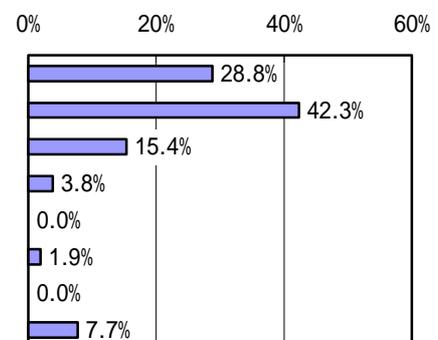
Q5. [年齢]

項目		件数	構成比
1	20歳以下	0	0.0%
2	21～30歳	8	15.4%
3	31～40歳	10	19.2%
4	41～50歳	11	21.2%
5	51～60歳	12	23.1%
6	61～70歳	7	13.5%
7	71歳以上	0	0.0%
n	無回答	4	7.7%
回答者数		52	100.0%



Q5. [お住まい]

項目		件数	構成比
1	京都府	15	28.8%
2	滋賀県	22	42.3%
3	大阪府	8	15.4%
4	奈良県	2	3.8%
5	兵庫県	0	0.0%
6	三重県	1	1.9%
7	その他	0	0.0%
n	無回答	4	7.7%
回答者数		52	100.0%



【アンケート結果・資料編】

Q1. 琵琶湖部会一般意見聴取試行の会に参加いただいたきっかけは？(複数回答可)
9 その他
意見発表者(石山さん)から案内
河川管理者の一員として
行政関係者として

Q2 - 2. 実施場所について
3 その他
今回の会場のように、駅からも程々であり、環境的にも湖畔であり、非常によい場所と思う。
時と場合によって、行う場所を変えていただけるとうれしい。

Q2 - 3. 自由討論の時間について
60分……………2名
90分……………5名
90～120分……………1名
120分……………5名
半日……………1名

Q2 - 5. 琵琶湖部会一般意見聴取試行の会の運営方法について
天ヶ瀬ダム再開発について流域委員会4月検討資料を事前配布してほしかった。 こういう検討をしていることは、宇治市民、宇治市議会など利害関係者に公開すべき(持ち出し禁止のため私からはできません。)
イベント企画による地域住民参加を促す。
インターネット、メーリングリストにてもっと多くの住民の意見を聞く。
円卓を囲む席の配置も会場の人たちの意見が出やすいやり方でよかったですと思います。
活動してない人、環境問題に関心のないのが一般の人ではないか。 人選に問題がある。
聞いているだけの委員は一般傍聴席にいるべき。
行動を起こす前の人の理念を議論したり、やり方、方法論を議論しても、あまりというかほとんど意味がないと思います。 いろいろな信念があるのが、事実でありその信念にそって行動した結果の報告会の場とされたらどうでしょうか。 聞きにくる価値があると思いますし、自分もと思います今日の野田さんみたいに。
この場にそぐわない発言が少しあった。 県河港課の話は良かった。
社会参加の方法として自治体経由の回覧板形式が良いと思う。家族会議を通じたり、一番気楽な家庭教育である。

Q2 - 5 . 琵琶湖部会一般意見聴取試行の会の運営方法について

自由討論で良い意見が多くきかれるので、自由討論の時間を多くとってもらいたい。

自由討論の時間について、少なくとも半日は討論しなければ

自由討論の時間について、テーマを決めると難しい

・自由討論の時間について、導入部での各自の主張は自己紹介程度に短く。
・毎回、発表者を選ばれるのに苦労が多いようですね。

住民への連絡方法としては、行政機関(県市町)を通じ宣伝しては、

・選択項目に「不満」がないのはおかしい。
・発表者の方があまりにも準備不足である。本日の会において何を問題提起したいのか、発表するからにはきちんと整理・準備をしてのぞむべきではないか。

税金の大部分を負担している、働いている世代(30~50才代)の意見を聞く機会を設けるべきと考えます。

・大学等にもっと情報を流せば良いのでは
・自由討論の運営が少し下手すぎ(身内ばかりの発言が強い。自由討論ではない。結局対談になっている)

・多様な意見があって、発表者の選考はよかったと思う。
・琵琶湖部会の委員の出席が半分弱であり、普通の出席率なのか説明が聞きたいと思った。
・もう少し会場の意見をきく(多くの発言者から)時間があればよかったと思う。

妻や子供を連れて来れない。
いろんな貴重な意見を生で聞かせてもあげたいが、長くは持たないので、子供たちが遊ぶなりできる"もの"もあればなあと思います。

発言者として参加させていただきましたが、とても勉強になりました。あまりにも情けない発表でしたので、次回には努力したいと思います。

発言者に学生が多く「若者 = 学生」という感じになり「学生だから好きなことが言える」という発言まででていた。若者は、学生だけではないと思いますのでそういう人達の意見も聞いてほしい。(希望者がいなかっただけ?)
ただ、学生以外の意見は言いにくかったと思います。また、学生であろうと発言には責任をもってほしいと思います。(たぶんもっているとは思いますが。)

発言者の意見をもっと対立的にすること。賛成派、反対派は意見交換するとか。
一方的な意見の述べ合いで参考にならない。

発言者のもち時間(15分+質問5分)が少し長かったのでは、発言者への会場の質問を受け付けるなどした方が良かったのでは?

発表者、委員のみの議論の時間が長すぎる。
本来の趣旨でもあるように、こういう機会にこそもっと会場と一体となった議論が必要。

一人一言といった事ができ、参加者皆んなの意見が聞けるような方法がないかな?と思います。
一般の人達の意見がもっと発言出来るような方法がないだろうか?

もう少し、傍聴している人の意見を言いやすい環境を作っていただきたいです。

・もっと会場の参加者に発言させるべき。
・委員の話が長い。もっと短くするべき。

若い人への会の案内がどのようにされたのか、発表者の選択までの時間は十分だったのか。出席者の片寄り(若い人が多い)が気になった

特にありません

Q3 - 2 . 琵琶湖部会一般意見聴取試行の会について、ご意見、ご提案、ご感想などを自由にご記入ください。
一般意見聴取試行の会に「何を期待するか」が不明 今回はたまたま「若手の意見」を企画した程度の意味しかない。 住民参加の必要を掲げているが、そのための具体的実行案を作ることはないか。
一般の人の意見聴取になっていない。
いろいろな意見が聞けて、住民として、母親として何をすべきか考えました。 一つの意見にまとまるのはむずかしいと思いますが、皆が自分の立場を忘れて、地球規模で何をすべきか考えて行けば、よいのではないのでしょうか。 本日は参加出来てとてもよかったです。
いろいろな分野の人達の意見を聞けてよかった。
・会の目的が十分理解できなかった。 ・年を取った者として、出席をためらった。
回を重ねるといいと思います。
川の役割は、心に対する役割も大きくしめると思います。汚さない事は、工事、家庭雑排水だけでなく、川に遊びに来る人達のモラル、責任も求めていかなければならない(琵琶湖も含めて)
関心のない人に意見をどう伝えるかという事が大きなテーマであったが、今、淀川流域委員会の提言がマスメディアに取り上げられて意見が伝わることは間違いないと思う。 ただし、その点を利用して大きな声を上げようという人が出てくることは間違いなく、opinionではなく事実に基づいた議論を続けることが必要である。
来ていただくのではなく、集会の場に出かける発想も大事ではないでしょうか。
議論が発散している。 河川をもっと真剣に考えてほしい。(河川に関する話題をもっと特出すべき)
こういう形でも、一般の意見をきく場を持つことは大切だと思います。どれだけ「反映される」が注目していきたいと思います。
・国交省 淀川事務所は、文部科学省と協議し、湖沼河川に自治体と協同でピオトープを実現し、子供に水の環境生態について理解を深めて頂きたい。 ・農・工業、生活排水について、生活者が理解できるよう、産官学がアピールしてはどうか
・このような会があること自体、知らない人が多いので、どのようにしたら一般の人達が興味を持ち参加できるのかと いったことを考えていくことが大事だと感じた。 ・興味のない一般の人が多い場合、一般意見聴取そのものが成り立たない可能性がある一方で、直接的な興味がない人も参加できるようにしていくことを考えていく必要があると感じた。
今回の試みは、とてもよいと思います。 まずは実体としてどんな状況なのか(世代間ギャップも含め)知るためにも、このような機会を続けていただきたい と思います。
次回も開催して下さい。琵琶湖部会の意欲に敬意を表します。
時間が短く伝えられなかった。
・地元の人意見も聞きたかった。 ・学生の討論会みたいになったのは少し残念でした。
自由討論にエンジンがかかるのに時間がかかるので、討論時間は長めが良い。
・水害経験のある人の意見を聞く事。 ・マナー向上、廃棄物処理、魚釣り、人間と力の倍増と自然の力差の拡大問題、環境一辺倒よりマナーの向上を 図る事を考えよ！ 増水時で船が航行できること、切れないテグス、破れない網
大学生を始めとする若い人達の考え方が伺えて興味深かった。

Q3 - 2. 琵琶湖部会一般意見聴取試行の会について、ご意見、ご提案、ご感想などを自由にご記入ください。

ダム関係の行政機関に係るもので、ダムに関する意見がもっと出ると期待していたが少なく残念であった。県でもダム計画があり進行中で地元(ダム周辺)住民の理解を得て進めており、また、川づくり会議等で一般住民の意見聴取し、河川整備計画としてまとめる段取りですが、淀川部会でも意見を聴く場を再度設定してはどうか。

・多様な社会層から意見をきくという今回の試みは、意義があると思う。
・「つながりがなくなってきた」という意見があったが、今後の行政の取り組みとしては、まさに広く意見を聞いてコンセンサスを得ていくことが必要だと思う。

討論が討論になっていない。
これまでの流域委員会と同様、各人が自分の意見(言いたいことを)を話すだけ、議論になっていない。

野田さんの「コミュニティの水を飲む」というのは良いアイデアだと思う。町内においてタダの水があれば喜んでくみにいきます。残念ながら夏の水道水はまずいのです。ぜいたくなモノなので、水があれば生活できますが、おいしいモノがあればそちらに行きます。これは生活の一部です。環境に関心のない人もおいしいもの、水道水よりも混ぜもののない“安全な”水ならば関心もてるのではないだろうか。一般の方で「間接的なアクセスを」といわれました。この「町内(コミュニティ)の水」はその一つに使えるのではないだろうか。

発言内容をホワイトボードに書かれていることは良いことだと思いますが、見にくい。残念。

発表意見は、意見が具体的で、提案も具体的なものに限るべきである。

・発表の意見は専門性の高い話題が多いかと思いましたが、そうでもなかったので聴き易かった。その反面具体性にかけていたと思われます。提言になっていない意見が多いのでは…。提言されないのであれば、議論の場になればいいと思います。
・嘉田先生はとてもファシリテーターするのが上手だと思いますが、いかんせんまとまりすぎな感が否めないように思います。もっとざっくばらんに話ができたらと思います。

日野川について要望書を提出しますのでよろしくお願いします。

・琵琶湖で農業・漁業をやっていた人の意見発表が残念。
・学生さんがしっかりした意見を持っていることに感心しました。

方法論としてのやり方に対する意見になったり、嘉田委員が論点の矛盾をついてみたりされてますが、意見を建設的にするためにも、事実の報告に限ったりしたらどうでしょう。

本会のような会は止めたほうがよい。

本年度中に、法に基づく河川整備計画が策定され、それに基づき、事業が進められていきます。流域委員会の提言までに、もっと多くの意見聴取の機会を得ることが、大切だと感じました。

また若者として参加したいと思います。

もっと意見が言える場がよいと思います。時間もとらなければならないと思います。

・もっとPRしていくべきである(そのようなものがあることを知らなさすぎる人が多いと思う)
・できれば定例化してほしい。

流域委員会で議題になっている、地域の人達と河川の治水・利水・環境について話し合える場を設けるべきである。
やはり、関係者として地元の人意見を大切にすべきである。

若い方々の自由な立場からの意見が聞けるオープンさは楽しく、なるほどと思える部分も多くあった。しかし、前半の3人の若者の意見はそれぞれの動きだけが出された感だけ残った。基本的に自分もこんなことやっているよということだけでよいのなら、意味があるかもしれないが、後半とは違った感じがします。

若者を特別視した扱いで進められている。環境に興味のある学生は非常に多い。もっとアピールしていくことが必要だと思う。
大学内で、こういう委員会があるという告知も見つけないのが実情である。

・若者論は大切ですが、別の場所でやるべき内容になっていたのでは。
・そもそも本日のタイトルは「これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会」であり、今日の議論の内容は本当にこれでよかったのでしょうか。せっかくの休日をこの会議の参加に使ったのは間違いでした。

<p>Q4. 本日の会は、21世紀の社会の主演となるべき若い人たちから意見を伺うことを主眼において開催しました。若い人達からの意見聴取方法について、ご意見、ご提案等あれば、ご記入ください。</p>
<p>委員会で討議されている問題や提言は、特に琵琶湖部会では河川整備だけでは解決できないことが多い。委員会として他省庁、自治体、関係団体との連携、行政の垣根を取り払い法等の具体的な方法や提案を示してほしい。現状のままでは、貴重な意見や問題点が、葬られる事になると思う。</p>
<p>高校生や中学生に意見を求めるならば、流域の府県の教育委員会(高校の場合)、市町村の教育委員会(中学生、小学生の場合)を通して、各学校単位でも意見を求めることができるでしょう。</p>
<p>この「淀川水系流域委員会」の活動に若い人達からの意見聴取は必ずしも必要ではないし、この問題解決に老人は賢人であるには変わらないのである。若者の教育の場として参加には問題ないが、問題は、琵琶湖部会として「琵琶湖の環境」について「住民参加の活動」が効果のあるものにする具体化への取組みが必要と思う。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・最近被災した経験のある人の意見も欲しい。 ・水害経験の承継等の意見は全く無責任である。 ・老人と若人との意見交換会形式もあるべし
<p>事前に広く知らしめる必要性</p>
<p>少なくとも滋賀県内の高校・大学くらいにリーフレットを届けてはどうでしょうか。それを読んだ若者が一人でも来てくれたらいいのでは。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを決めておいて車座で実施する。 ・本日の若い人達のグループに広報する。
<p>とりとめのない意見が多かったと思う。</p>
<p>何度も開かれる中で、新たな試みを工夫していくことだと思います。今日もこれだけ多くの方が集まってこられているのは、淀川水系流域委員会への関心の高さの表れですね。次回、楽しみにします。</p>
<p>21世紀の主演なら、それぞれ20回以上を超えている委員会・部会の傍聴にまず参加する必要がある。住民参加部会に「若者部会」を作るというのは、ぜんぜん分かっていないのだから。平日に行われているので、本日の6人は平日には参加しにくいのであろうが、傍聴の若者もそれであろう。</p>
<p>農協・漁協・森林組合・生協などで募ってみられては？</p>
<p>本当の一般の人の意見を聞くのが、この会の目的ではないか。</p>
<p>まず、関心のある人を増やさなければならない。具体的な方法はないが、マスコミから聞くより、家族や知人から聞くクチコミの方が説得力がある。一人でも多くの方が世間の会話で話をすることが遠回りでも大事なのかと思う。そういう点で最も住民に近い市町村の取り組みが重要である。市町村によってレベルは、まちまちなので、国は県や市町村に「大事なことを具体的に」もっと指示をすることが必要なのかも知れない。淀川流域委員会から直接市町村に働きかけても良いのかも知れない。</p>
<p>もっと多くの意見聴取する方法を考える事。</p>
<p>もっとディスカッションできる形の方がいいです。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・“若い人”から意見をきくということであれば、応募要項にもある程度の年齢を明記した方が主旨が伝わりやすかったのでは？ ・話の内容が「地域住民参加(方法)について」が主であったのが残念。淀川水系の開発についてつっこんだ発言がほしかった。
<p>若い人だけなのか、水害経験を有する地元の長老の意見を集める必要があると思う。</p>
<p>若い人達がこの人数で来ている方だというのが驚きです。私の思うには、若い人達は環境問題を知っています。これは、いろいろな媒体があふれている為だと思います。がしかし、“気付いていない”というか理解していない分、分かっていないだけです。知っているのに気付かないという状況はほんの少しのキッカケで変えることができると思います。全然違った角度からどんどんアプローチすることを私はしたいと思います。</p>

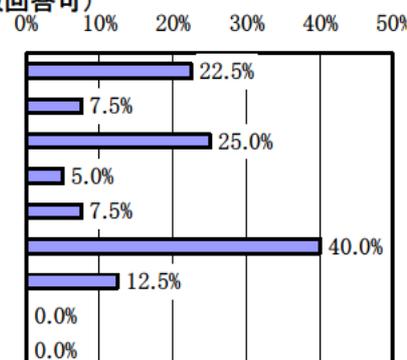
<p>Q4. 本日の会は、21世紀の社会の主演となるべき若い人たちから意見を伺うことを主眼において開催しました。若い人達からの意見聴取方法について、ご意見、ご提案等あれば、ご記入ください。</p>
<p>若い人達からの意見を伺うという事であれば、せっかく世界子供水フォーラムなんかも開かれた事もあり、その参加者からの意見も聞いてみたいと思いました。</p>
<p>若い人達だけで討論できれば、委員も一般傍聴席にまわる。</p>
<p>若い人たちの意見 不満になりがちなので、何を問題としているのか、どんな理想を持って、現状をどう考えて、どんなことを考えているのか(行動したのか)といった、建設的な意見となるような枠組は提供してほしい。</p>
<p>若い人達の意見の中には、社会生活・基盤は自分達でつくる。それは、リスクも伴うという事が忘れがちであると感じた。 実生活で便利さを体で得てしまった時、又、自然の生活に戻れるであろうかと疑問を感じました。 今は、コンビニに行けば生活ができます。一世代前は、店に行っても、物は加工しないと食べることもできませんでした。便利さは人の感覚を鈍らすということを、生活を通じて見直してほしい。法とは別に、努力できることと感ぜず。</p>
<p>若い人達の考えが新しいかどうかはよくわかりません。当委員会が若い人を見つめようという意図は一定の目標に達成したと思いますが、より具体的な動きが聞けるパネリストを希望します。 運営ご苦労様でした。</p>
<p>若者からの意見をどんどん出してくれと言っているにも拘わらず、若者参加の話になったとたんに、「若者がそもそも流域委員会に来てない」だの「委員会にも来ずに勝手なことばかり言う」だのと罵り始めた。これはどういう事か。川に対する自由な意見を発言することが出来るというのが、委員会のメリットであるはずなのに、これでは発言を制限している。参加したいという若者に対して「流域委員会に来てないからダメ」とか「まず委員会を見てから言え」とつっぱねる行為は多様な意見の吸い上げを疎外する結果となるであろう。年寄りだけが満足する会であってはならない。ちなみに、私も、若者部会があれば参加したいし、委員会に参加できるならばしたいと考えている一人です。</p>
<p>若者は環境への関心を持っている、大学において環境××と名が付く学部・学科の多さはその表れである。</p>
<p>若者や他県の人意見は、違った角度からの意見として、とても有効ではないでしょうか。ただ一つのことだけを考えてしまう傾向があるように思いますので、いろいろな角度から見るようにして行けばよいと思います。 若者は与えられたことをする(与えられた場で意見を言う)のみではなく、自らが「聞いてやるう、見てやるう、やってやるう」の精神で、これから進んでいけば、新しい未来が開けて行くのではないのでしょうか。 今回発表されたような若者が増えることを祈っております。</p>
<p>淀川水系委員会の提言さえも国交省に取り入れられない様子であるが、徐々に世代交代が進み、若い人達の意見が取り入れられるようになっていくことを期待する。 ただ今日の意見を聴く限り、どうしたいという目標がまだはっきりしていないように感じられた。 今日の意見の中では石山一光さんの言われていることが全ての元凶のように思われる。委員会でも色々出されてきた話は技術面、専門知識的なものばかりのように思われる。</p>

<p>Q5. 職業</p>
<p>8 その他</p>
<p>パート……………1名</p>
<p>フリーター……………1名</p>
<p>無職……………3名</p>

淀川水系流域委員会 琵琶湖部会一般意見聴取試行の会(7/19)に関するアンケート 集計結果

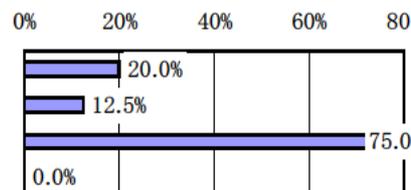
Q1. 本日、この会に参加いただいたきっかけを以下から選んでください(複数回答可)

項目	件数	構成比
1 委員から案内された	9	22.5%
2 知人(委員以外)から案内された	3	7.5%
3 庶務から案内チラシが届いた	10	25.0%
4 流域委員会会場でチラシを見た	2	5.0%
5 市役所など公共施設でチラシを見た	3	7.5%
6 行政関係者から案内された	16	40.0%
7 インターネットホームページ	5	12.5%
8 その他	0	0.0%
n 無回答	0	0.0%
回答者数	40	100.0%



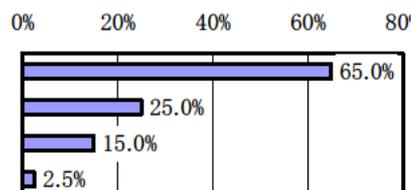
Q2-1. 実施する曜日と時間について(複数回答可)

項目	件数	構成比
1 平日の昼間がいい	8	20.0%
2 平日の夜がいい	5	12.5%
3 土・日・祝日がいい	30	75.0%
n 無回答	0	0.0%
回答者数	40	100.0%



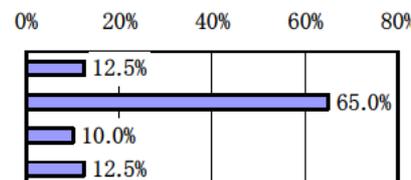
Q2-2. 実施場所について(複数回答可)

項目	件数	構成比
1 街中の交通の便がよい所がいい	26	65.0%
2 川の近くなど自然に触れあえる所がいい	10	25.0%
3 その他	6	15.0%
n 無回答	1	2.5%
回答者数	40	100.0%



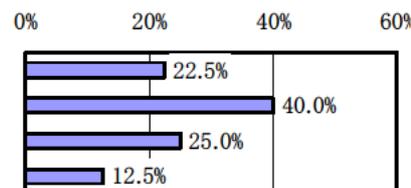
Q2-3. 自由討論の時間(90分程度を予定)について

項目	件数	構成比
1 長い	5	12.5%
2 適当である	26	65.0%
3 短い	4	10.0%
n 無回答	5	12.5%
回答者数	40	100.0%



Q2-4. 本日の琵琶湖部会一般意見聴取試行の会の運営方法について

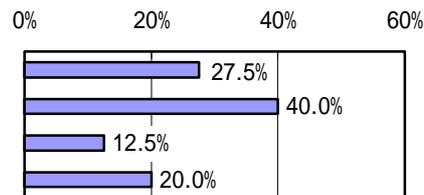
項目	件数	構成比
1 満足している	9	22.5%
2 どちらとも言えない	16	40.0%
3 やや不満がある	10	25.0%
n 無回答	5	12.5%
回答者数	40	100.0%



Q3. 本日の琵琶湖部会一般意見聴取試行の会の内容についてお伺いします

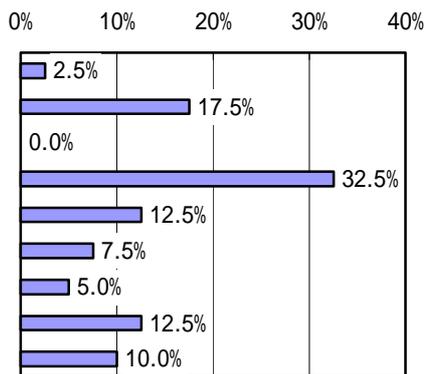
Q3 - 1. 本日の一般意見聴取試行の会を通して、満足されましたか。

項目	件数	構成比
1 満足している	11	27.5%
2 どちらとも言えない	16	40.0%
3 やや不満がある	5	12.5%
n 無回答	8	20.0%
回答者数	40	100.0%



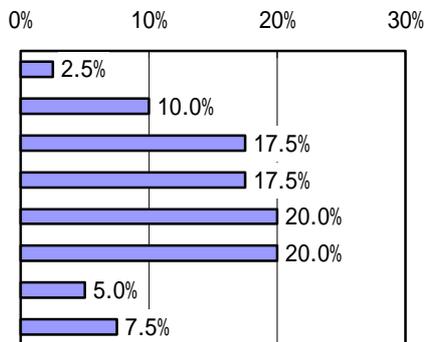
Q5. [職業]

項目	件数	構成比
1 公務員(河川関係者)	1	2.5%
2 公務員(その他)	7	17.5%
3 NPO等関係者	0	0.0%
4 会社員・会社役員	13	32.5%
5 自営業	5	12.5%
6 学生	3	7.5%
7 主婦	2	5.0%
8 その他	5	12.5%
n 無回答	4	10.0%
回答者数	40	100.0%



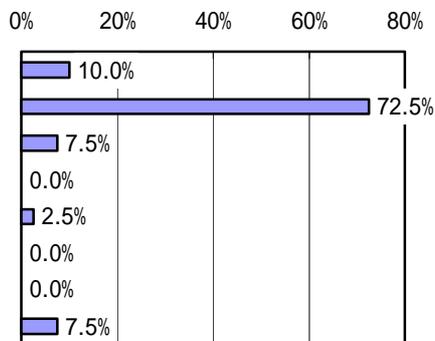
Q5. [年齢]

項目	件数	構成比
1 20歳以下	1	2.5%
2 21～30歳	4	10.0%
3 31～40歳	7	17.5%
4 41～50歳	7	17.5%
5 51～60歳	8	20.0%
6 61～70歳	8	20.0%
7 71歳以上	2	5.0%
n 無回答	3	7.5%
回答者数	40	100.0%



Q5. [お住まい]

項目	件数	構成比
1 京都府	4	10.0%
2 滋賀県	29	72.5%
3 大阪府	3	7.5%
4 奈良県	0	0.0%
5 兵庫県	1	2.5%
6 三重県	0	0.0%
7 その他	0	0.0%
n 無回答	3	7.5%
回答者数	40	100.0%



【アンケート結果・資料編】

Q2 - 2 . 実施場所について
3 その他
いろいろやれば良い
現地の声が届く所
ダムが出きる地元で
ダムの地元で実施すべき
駐車場の広い所にしてほしい
論点の対象となる地域etc

Q2 - 3 . 自由討論の時間について
30分……………1名
60分……………3名
120分……………2名
180分……………1名

Q2 - 4. 琵琶湖部会一般意見聴取試行の会の運営方法について

委員が欠けている

- ・委員の質問がプレッシャーになっていると思う。
- ・委員だけが質問できるのは不公平だと思う。
- ・委員の方も、一般傍聴の人も同一の席でいいと思う。

委員の人は発表者の資料について事前視察されていないと感じました。何故なら発表者の問題に対する解答、返答、アドバイスが不十分なところがあったように思いました。ある程度の把握はしておくべきと思います。

一般聴取者の意見を事前に参加希望と共に集めてその中からピックアップして発表する時間を設けてはどうか？

- ・瀬切れは琵琶湖からの逆水で河川へ流し 又逆水でポンプUPすれば良い。
- ・行政議会の大量動員が目立ち一般住民の意見を反映したもとは到底思えない今日の一般意見聴取会であった。湖水の利水(用水)は琵琶湖逆水に依り、ダムを作らなくても十分に今後も心配は無い。

一方的な意見を言う人には最後まで善意的な対応をしてもそれは自己満足になってしまうのでは。×なら早く言うべきです。

今迄、流域委員会で出された意見を内容別にまとめてもらいたい。

多くの人前で発言できない人への対応(意見聴取)
反対意見が発言しにくい雰囲気(、×、無関心の同数の意見交換)

- ・行政が6月に作成した丹生ダム、大戸川ダムの必要性のパンフレットについて検討する会を催してほしい。
- ・現在の水田づくりは、政策的に優遇されて省力化がすすみすぎているように感じる。濁水問題や水の利用などについて農業者から意見をきく機会ももってほしい。

9億円近い金を使い何の委員会か

Q2-4、Q3-1の選択肢がおかしい。「やや不満がある」はかなり満足しているが、いくつか不満な点もあるという場合に使う用語であり、「満足している」の対極に位置するものではない。つまりQ2-4、Q3-1では「不満である」または「大いに不満がある」という回答を拒否してることになる。

Questionの決め方に問題があります。
Protections

今日、発表した方の意見をもって聞くべきではないかと思いました。あまりにもダムの要望に偏っており、発表された方の趣旨とずれがあると思います。もう少し頂いた意見に対する議論をしてほしい。発表された方に今回の会をどう感じたか聞いて、次回の運営に反映してほしい。

最近流域委員会の会議の持ち方(会場・方法等に)大変大きなお金がつかわれているように聞きます。これが本当ならマスコミ等を使い一般住民に周知すべきだ！地元新聞に載せてもらうしかない

最初、かなりの時間がおしていたが委員の方の発言を控えていたため会場の方の意見は希望者のほとんどの人が発言できたと思います。それはよかったです。

参加者が多いなか 会場のもち方を検討を

自由討論を多くしたほうが良い

少し一般からの意見が少ない、それぞれの立場で意見がほしい
計画は河川管理者の立場も考えて時間も欲しい。

立場や職業により意見はいろいろあると思います。各種団体等の区別をして意見聴取をされたいかがですか
部会の前に、インターネットやメールなどで、意見を募集してもいいのではないかと思います。

予定時間についてルーズである。

若者討論会ということで、もっと若い人がきていると思った。学生などにも、もっと参加してもらおうようにしたいと思う。

特になし

Q3 - 2 . 琵琶湖部会一般意見聴取試行の会について、ご意見、ご提案、ご感想などを自由にご記入ください。

意見聴取者を公募しながら発表できない人がいる。広く聴くことが目的であれば再考を
意見発表の場を設けて下さったのはいい試みだと思う。ダム賛成、反対の人それぞれの考え、また委員会の方々の意見が聞いてよかったが、率直にこれからどういう方向に進んで行くのか、わからないし、これはまとまらないなと思ったし、誰が決めるのかと思った。早く結論を出して頂きたいを思った 裁判とかみたいに何年もかかってほしくないです。
一般意見聴取の人数を多くすること
色々な考え方もいい。基本的には、自然と共に人がいる、自然との共生が必要である。そのような中でダムを考えて欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・嘉田委員の質問は揚げ足取りの質問である。 ・ドイツと日本を一緒にするな ・倉田委員の質問は大学生に講義しているつもりか？ ・重要な会議に委員の欠席が多い
嘉田先生の下流の人たちの交流提案は大変いい意見だと思います。ぜひ、実現したいと思います。具体的なことがありましたら、役場までご連絡下さい。地元も喜ぶと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・気象協会の方の意見は一般意見の主旨に合わない。 ・国交省提供の資料を使用している発表者があったがどういうことか。 ・意見を聴く立場の委員の出席率が半分以下では会の意味がない。
聞けば聞くほど委員会への考えに向けて行くような気がする。具体的な話を示してほしい。都市の中に住んでいる人が本当に、自然を守ると言うことを考えてるのか、疑問である。草刈を楽しくやれない、必死でやっているんですよ。地元を守ってるんですよ。都市の人は行政まかせの管理ではないか。
一般意見を議長が広く求意されたのは立派！行政のタテ割(上司から下へ)の命令ではなく。小生、西陣の織屋でしたので、タテ、スタレ、ノレンに横の糸をうたなくては織物になりません。緯を入れてこそ布になるのです。
現場の生の声を聞く事ができてよかったです。
<p>この試行の位置づけをはっきりさせるべきだ。聴取方法の開発なのか意見を聞いて、流域委員会の提言に反映させるものなのか。</p> <p>意見に対して、委員会からの質問を事前に集めて整理して、質問すべきだ。</p> <p>一般意見の反映方針をし整理して発表すべきである。</p>
地元の意見、流域の住民の意見が聞かれてない
<ul style="list-style-type: none"> ・地元への意見聴取は大事であると思う。 ・一方、一般住民の意見聴取はいずれにしても、全員、全意見がムリであるということ認識すべき。その意味で、余り回数を重ねることは意味が無い。 ・出口がわからない ・説得されて、ダムにOKされたゆえの人に対して、自ら正当性を主張せよ、とは本末転倒ではないか。気の毒である。
職業別に意見を出していただきたい。
狭い地域での討論も必要と思う
各町単位 または直接ダムに関係する地域の意見発表
<ul style="list-style-type: none"> ・試行の会と言って聴きっ放しにならないよう願う。 ・地元の意見、心情を理解してほしい。 ・委員の結論ありきの会議では困る。
前回は学生の討論会という感じがあったが今回は社会人の方ばかりで、意見が身近に感じました。ただ、漁師の方が、横の余呉町役場の方を責めるような発言があった時には、どうなるかと思いました。魚が減ったのは、行政だけの責任ではないと思います。漁師の方も含める人間が便利さを求めたからだと思います。
<ul style="list-style-type: none"> ・ダムをやめた場合、代替案はもちろんのことダムを予定していた地域の今後の施策も検討する必要がある委員会にはあるのではないかと、今日の発表者の意見をきいてその思いを強くした。(委員会の検討範囲は広がるのではないかと。) ・琵琶湖の深底部の水質悪化がひどいという漁業者(一般傍聴の方)の話をきくことができたが、その水質の程度にかかわらず、この委員会と琵琶湖を“直接”管理している滋賀県の淡海の川づくり委員会が意見交換してもよいのではないかと思う。 ・高時川、姉川の堤外民地を守ることが丹生ダムを造る目的として無視できないのではないだろうか。堤外民地は、早期に買収すべきだと思う。 ・地元の補償のためにダムを造るのではないはずなのに、それが一番の目的になっているように感じた。ダム建設による補償であるまちづくりとは切りはなして、純粋に必要性を検討して欲しい。

Q3 - 2. 琵琶湖部会一般意見聴取試行の会について、ご意見、ご提案、ご感想などを自由にご記入ください。

ダムをつくれば砂が下流に来なくなり湖岸の生態がくずれ、生態に悪を及ぼすのでダムはダメ

治水対策について様々な意見に触れる事ができて良い経験ができた。私はダム建設には反対の人間なのだが、安易に「建設反対」と言うのはいかなものかと思うようになった。住環境と自然環境の治水対策による両立を目指すには何をすべきなのかを考えてみたいと思う。

分科会方式として分散討議をしたらどうか。

・本日の会には行政サイドの動員がなされ、町会議員が大挙して来ている。利権があるかどうか解らないが推進派ばかりが非常に目立ったと思う。自然破壊の最たるダムは絶対反対であるが地元の賛成議員が多く、意見として出せない自分が恥ずかしく思う。ダムに代る方法は多くある。まして20～30年を眺めたら方法はある筈である。

もっと先生方の専門分野での勉強を高めていただき公開して欲しい。

やはり年齢層が高いのがとても気に掛かります。私も友人など、身近な人たちを誘ったりする事も大切だと思うのですが、全く違った立場の若者の意見を聞きたいと思いますので、若者を集める為の努力をお願いします。

・流域委員の発表は不満

・琵琶湖部会委員からの意見発表はダムの建設等の内容の考え方を聞くのだから藤井氏の貴重な時間を取って発表することはない！委員だから委員の中で提言し、後日一般に発表すれば良い。委員同士のほめ合いは滑稽な情景でした。

流域委員会委員の皆様をお願いしたい事があります。委員会の結論が出れば終わられるのですか。土地に住む住民はずっと住み続けます。意見を言いつ放しにしないでくださいネ。

Q4. 本日の会は、21世紀の社会の主役となるべき若い人たちから意見を伺うことを主眼において開催しました。若い人達からの意見聴取方法について、ご意見、ご提案等あれば、ご記入ください。

学生の方は1人ぐらいにしてやはり社会人の人を中心にした方がよいと思います。仕事を持って生活している人の発言は、責任を持った発言になります。学生の人には悪いですが、責任を持って発言される方もいるとは思いますが、やはり重みが違うと思います。

学生の方の思いを聞くということも大切だと思いますが、河川整備計画策定には意見がひろすぎだと思います。

環境問題について関心を持ってもらうことが最も重要ではないかと思う。意見聴取としては・・・高校・大学等の学校に頼む・・・とか。ただ、これは学生の意見しか聞けないのが欠点か。良い方法が提案できずに申し訳ありません。

今日は、ステイクホルダーの各々が数多く集まっていますが、その人々の責任として、若い人々を集める事は不可能でしょうか？高校の教諭などにも広報してみても？専門性や知識にあまりにも縛られた会では面白味がなくなるのではないのでしょうか？たまには初心に帰る意味でも専門的な縛りをもうちょっとなくしてみても？と思います

現在生活を守っている年代、水没地域住民の意見を聞いてほしい。

今後も期待する

事前に若い人の意見を提出して貰ってそれに基づいて意見を伺わないと本意の活発な考えが出てこないのではないか。または20年～30年を見た意見であれば今から20～30年前の状態はどうであったかということも検証する必要があると思う。成程時間の経過による変化も解るが原点に戻ってみることも肝要と考える。自然に返ろう。

児童、生徒(学生)学校を対象に

女子の方の参加が非常に少ない、女子が参加出来る様に考えて行かねばと思います。

ダムが全てでないと思います。ダムに替わるものが何かと聞かれても私は想像もつきません。今日、いろいろな方の意見を聞いて、ダムも必要だと思うし、自然を守ることも必要だと思いました。治水、治山、自然環境を守る等々、全てをクリア出来るのは何ですか。私は教えていただきたいと思います。

ダムの建設を今一度立ち止まって考えるのなら、建設の話が立ち上がった時点でいうのならわかるが、地域の土地を提供した住民の実情を考えると、下流域の安全を考えなければならない。一日も早くダム本体の工事を望みます。

・とてもよかったと思います。が少し残念に思ったことも多かった。
・若い方達が意外に保守的なことにも驚いた。
・ダムに関しては、私個人としては絶対反対です。
・治水に関しても氾濫受容型を是非とも考えて欲しいし、また、国がもっと理解を深めていけるよう、住民への説明が必要と思う。
・計画を早く作成してほしいという若い方からの意見がありましたが、もっともっと議論を重ねていく必要があると思いました。

21世紀半期(前)は森林保全の重要な世紀であると言われております。20世紀後期造林の後始末はこの時です。山の間伐をしないと治山、治水はできません。暗い林地では災害の危険が大きいのです。また環境にも病虫害の発生もあります。今、手当てをしないと将来に禍根を残します。ダム工事建設が遅れ中止にでもなったら大変なことになります。森林保全に最大の努力するのが国民の責務です。みなさん真剣に考えていこうではありませんか

年齢層を広くやって下さい。

もう少し若い世代(小中高生etc)から討論ではなく授業や観察会などを利用して、アンケート等をして、意見をまとめて欲しい。

・若い人だけ発表とかの時間を設けたらいいと思う。
・各識者の方ばかりが発表しているとなかなか出来ないと思う。

・若い人に意見を聞くという意味は何か？目的を明らかにして下さい。
・実際、今回も若者の会になっていない

・若者の参集が少ない
・若者の発言が少ない

若い人達の集まりやすい条件、発言しやすい環境について、若い人たちの意見を聞くこと。大人(委員の人たち)の都合で日時は場所を決めてはダメ。

単に年齢で若いとか、老人に分けることには反対

高齢になっても未知の体験や知識の吸収に意欲的な人もいれば、若くても無気力な人もいる。「若い」の定義は年齢ではなく、成長(さまざまな経験をして積み、正しい知識を吸収する)意欲で定義するのが良いと思う。

若さの発口として良い意見でしたが、過去の旧式をご存知なく、今の世での現実からの発言である気がしました。

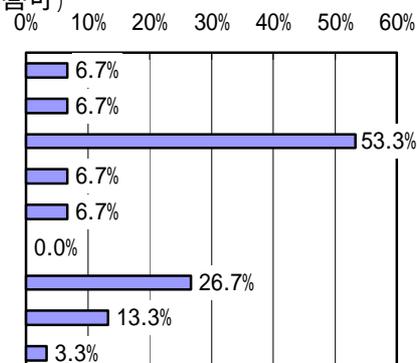
私はびわ町大浜です。中田氏が発表された隣字となります。私も河川の立木等で町役場に要望を3年1度提出します。本日の中田氏の発表は大変感銘を受けました。今後も若人の発表機会があれば、又発表のチャンス場を与えてやって欲しい。

若者の意見を云々とのネライでしたが、なかなか、上手いかないようでご苦労さまです。お年の方の意見はなかなか要領を得ないお話が多くてつらいですね。もっと地元の若者の意見が聞けるかと思いましたが、少しガッカリでした。年寄りの長話が多すぎましたね。

淀川水系流域委員会 琵琶湖部会・淀川部会一般意見聴取試行の会(8/30)に関する
アンケート 集計結果

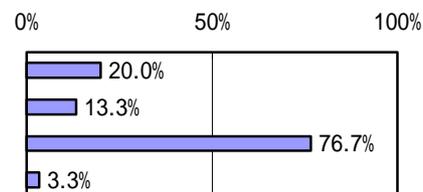
Q1. 本日、この会に参加いただいたきっかけを以下から選んでください(複数回答可)

項目	件数	構成比
1 委員から案内された	2	6.7%
2 知人(委員以外)から案内された	2	6.7%
3 庶務から案内チラシが届いた	16	53.3%
4 流域委員会会場でチラシを見た	2	6.7%
5 市役所など公共施設でチラシを見た	2	6.7%
6 行政関係者から案内された	0	0.0%
7 インターネットホームページ	8	26.7%
8 その他	4	13.3%
n 無回答	1	3.3%
回答者数	30	100.0%



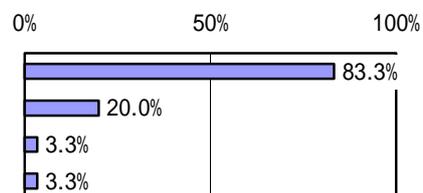
Q2 - 1. 実施する曜日と時間について(複数回答可)

項目	件数	構成比
1 平日の昼間がいい	6	20.0%
2 平日の夜がいい	4	13.3%
3 土・日・祝日がいい	23	76.7%
n 無回答	1	3.3%
回答者数	30	100.0%



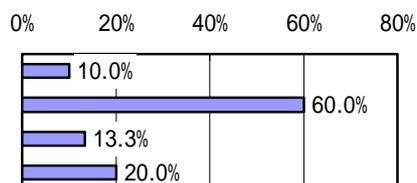
Q2 - 2. 実施場所について(複数回答可)

項目	件数	構成比
1 街中の交通の便がよい所がいい	25	83.3%
2 川の近くなど自然に触れあえる所がいい	6	20.0%
3 その他	1	3.3%
n 無回答	1	3.3%
回答者数	30	100.0%



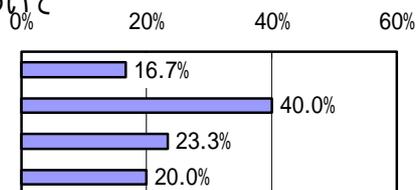
Q2 - 3. 自由討論の時間(100分程度を予定)について

項目	件数	構成比
1 長い	3	10.0%
2 適当である	18	60.0%
3 短い	4	13.3%
n 無回答	6	20.0%
回答者数	30	100.0%



Q2 - 4. 本日の琵琶湖部会・淀川部会一般意見聴取試行の会の運営方法について

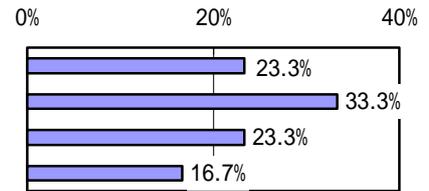
項目	件数	構成比
1 満足している	5	16.7%
2 どちらとも言えない	12	40.0%
3 やや不満がある	7	23.3%
n 無回答	6	20.0%
回答者数	30	100.0%



Q3. 本日の琵琶湖部会・淀川部会一般意見聴取試行の会の内容についてお伺いします

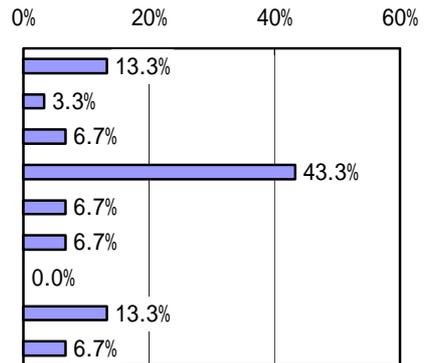
Q3 - 1. 本日の一般意見聴取試行の会を通して、満足されましたか。

項目	件数	構成比
1 満足している	7	23.3%
2 どちらとも言えない	10	33.3%
3 やや不満がある	7	23.3%
n 無回答	5	16.7%
回答者数	30	100.0%



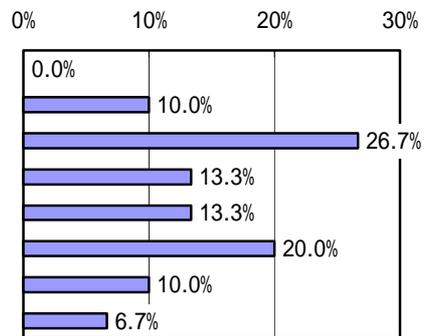
Q5. [職業]

項目	件数	構成比
1 公務員(河川関係者)	4	13.3%
2 公務員(その他)	1	3.3%
3 NPO等関係者	2	6.7%
4 会社員・会社役員	13	43.3%
5 自営業	2	6.7%
6 学生	2	6.7%
7 主婦	0	0.0%
8 その他	4	13.3%
n 無回答	2	6.7%
回答者数	30	100.0%



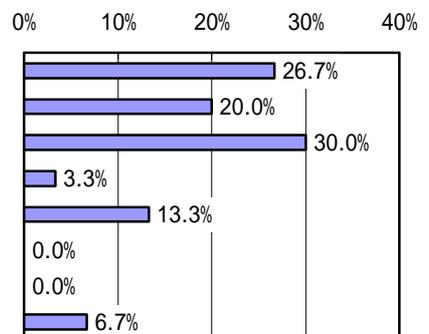
Q5. [年齢]

項目	件数	構成比
1 20歳以下	0	0.0%
2 21～30歳	3	10.0%
3 31～40歳	8	26.7%
4 41～50歳	4	13.3%
5 51～60歳	4	13.3%
6 61～70歳	6	20.0%
7 71歳以上	3	10.0%
n 無回答	2	6.7%
回答者数	30	100.0%



Q5. [お住まい]

項目	件数	構成比
1 京都府	8	26.7%
2 滋賀県	6	20.0%
3 大阪府	9	30.0%
4 奈良県	1	3.3%
5 兵庫県	4	13.3%
6 三重県	0	0.0%
7 その他	0	0.0%
n 無回答	2	6.7%
回答者数	30	100.0%



【アンケート結果・資料編】

Q1. 本日、この会に参加いただいたきっかけ
3 その他
会社から
前回来たから

Q2 - 2. 実施場所について
3 その他
上中下流、主要な河川構造物の見学ができる近くの公共の建物
必要があれば、実際話題になっている場所でもいい。へんぴなところでも

Q2 - 3. 自由討論の時間(100分程度を予定)について
10分……………1名
60分……………1名
120～150……………1名
全体で150分……………1名
180分……………1名
討論の内容による…1名

Q2 - 4. 本日の琵琶湖部会・淀川部会 一般意見聴取試行の会の運営方法について
<p>集まった人を対象とした小手先のことを考えるより、もっと先に考えなければいけないことはないのでしょうか。開催の目的、時期、場所、発言者の募集方法など、もう少し熟考する必要がありはしませんか。</p> <p>それから今回の「一般意見聴取試行の会」の目的は何なんでしょうか。一般の人の意見が知りたいのか、それとも討論がしたいのかによって、会の運営方法が変わります。あるいは単に、意見聴取の方法を探っているだけなのか、本当に討論したいのか、会の開催目的が不明確です。討論するなら、何をテーマに討論するのか、司会者は明確にしなければならぬでしょうし、一般意見聴取なら、質問に答えることがあっても討論は必要ないでしょう。いずれにしても開催の目的等十分考えられたとは思えないのですがいかがでしょうか。</p> <p>委員会の望み通りに若者が集まらなかったのは、いろいろな要因があると思います。その中で、出来る限り参加者の意見を引き出しておられたと思います。</p> <p>委員の方の発言を控えていたようですが、出席された方は一度ぐらい発言したほうが良いと思います。今までのアンケートで委員の意見が長すぎるという意見があったからだと思いますが、せっかくですから自分の意見は言った方がよいのでは…。</p> <p>発言するのはむずかしいかもしれませんが。</p> <p>一般意見の中にいく点が河川管理者への質問がありましたので、河川管理者にも出席願った方が良いと思います。</p> <p>NPO、NGO、ゼネコンやコンサルの人の話が聞いてみたい。</p> <p>・街頭アンケートでもして、一般の人はどう考えてるか資料にしてみたらよいのではないかと。</p> <p>・学生(中、高生)の意見を学校できいてみたらどうか？</p> <p>京都市でも開催して欲しい。 傍聴者はほとんど業界関係者ですね。</p>

Q2 - 4. 本日の琵琶湖部会・淀川部会 一般意見聴取試行の会の運営方法について
現在20才～35才マデ現実、実行、行動等教育スルノガ今又60才～100才マデ人間指導スル事
今回初めて参加致しました。『これからの琵琶湖と川とダムを考える若者討論会』ということで、どのくらい若い方々がこのようなことに意識を持ってられるのか期待して参りました。 今回に限ってなのかもしれませんが、若い方の姿が少ないように感じました。少し残念な気がしました。
・時間の問題ではない、中味の問題 ・議論を整理する議長、座長(コーディネーター?、ファシリテーター)の力量の問題。
土木学生・地域住民を対象には賛成。 NPO活動をやっても環境学科の学生は継続に来て、機械・経営は「インターンではなくボランティアみたい」と一日でやめた。また他の委員会でも熱心に切実な発言をするのは地元近場の人。
何かテーマを決めて(予め討論題)時間をかけて1つのテーマに取り組んだら掘り下げたことが話せると思います。多方面にわたるテーマが大きすぎて時間が足りていない様な気がする。
話しが発散、散発、個別意見の発表会となっている。 もうすこし意見のキャッチボールをし、討論の内容をレベルアップ(次のステージへ)する進行があってもよいのでは。
1.発表者の時間が人により異なるところ 2.発表後の意見(委員)は、討論にまわせるものがかかりあった。
・盛りだくさんすぎはしないか ・前2回の内容を知らなかったため、いきなり安東さんの話についていけなかった。前もってダイジェストというか道すじをたてておいてほしい ・上流3人の方の話には共通点があってディベートになりそうだが、下流2人の方と上流3人の方とがディベートできないのは残念 ・どちらも興味深い問題なので、それぞれにたっぷり時間をとってほしい ・聴取+ディベートというアイデアのある会の運営、もっと面白くなると思います ・いちばん肩すかしだったのは若者のフランクな意見をきける、しゃべり場のような雰囲気期待してきたのですが…。これには残念でした。工夫して下さい。
問題が広すぎて何について考えればよいのかと思いました。 バラバラに思うことを述べるよりもある程度委員会の方で話しの進め方、議題について方針を示して頂くことより建設的な話し合いになるのではと感じました。
若い人の参加が少ないのはやはり関心がないことが一番ではないか。特に下流側の都市部は自然とのふれあいが少ないため、淀川水系という意識が少ないと思う。もっと河川に対して人が生活していくことに対して重要であることを教えていかなければならないと思う。
若者討論会になっていない。 若者に限定する必要はない。

3-2. 本日の一般意見聴取試行の会について、ご意見、ご提案、ご感想などを自由にご記入ください。
一般意見という場合のレベルの差がいちじるしい。 「満足している」にチェックができなかったのは、会の進め方に対してではなく、大人であるはずの方々の意見交換姿勢が残念であったからです。
いろんなスタイルを考えてください。又参加して若者の意見と交流できたらと思っています。
大阪水かいどうの平山さんの水質に関する意見に同感できました。委員会として実行、実施の方向に持っていく段取りまでどうするか? 出さないかどうかのOUTPUTを意見発表者に対して答えてはどうか?

3-2. 本日の一般意見聴取試行の会について、ご意見、ご提案、ご感想などを自由にご記入ください。
<p>・大津放水路について、今までだれも理解はしているが言うことができなかった。「洪水危険地区に住みついた人々も責任がある」この部分にとっても共感しました。同時に「行政にも責任がある」にも、もっともであると思う。住む人は住む人の思いもある。その辺りを討論せずに整備計画を進めるのは少し疑問があったので、今後このような根本も話あってほしいと思う。</p> <p>・話しが長く、結局ぐちなのか意見なのかわからん。ポイントをしゃべってほしい。</p> <p>・そう言えば、グランド使用者の清掃はききますが、ゴルフ利用者の清掃はききませんね。</p>
<p>各地域の切実な問題解決に対する思いが伝わり・感じることができ、一般意見聴取試行の会に参加しまして大変良かったと感じました。</p>
<p>今回の一般意見聴取試行の会は、開催時期、方法において間違っていると思います。8月末というのは、人が最も集まり難い時期です。しかも若者はこの手の集会にはこの時期殆ど集まりません。また例えマス媒体を使って広報しても同じです。8月はマス媒体の効力が最も低下する時期でもありますし、若者は口コミによって動くことがあっても、集団ではマス媒体の影響を受けても単独では影響を受けることが少ないと考えられます。開催のための開催ならいざ知らず、開催の時期については、もう少し真摯に考えて実施する必要があるのではないのでしょうか。</p>
<p>今回の試行の会では、いろいろな意見・要望などが発表されているが、委員会の抱えている課題に的を絞って、プラス方向(あるいは賛成)ないしマイナス方向(あるいは反対)の意見をバランスよく集めてはどんなものか。意見聴取は「意見」聴取であって、言いたいことを言ってもらっただけでは不十分ではないか。それと「若い人」の意見が少ないのが残念。</p>
<p>最初の発表者の方は何が言いたいか、今回もわかりませんでした。もう少し自分でドリョクして整理するべきと思います。最後の発言も今まで河川管理者が公開していることを何も勉強していないと思います。</p>
<p>酒井氏の発言はすばらしかった。</p>
<p>地元の人意見が聞けて良かった。</p>
<p>自由討論の時間が少し短かったように思います。 ただ上流と下流で全く異った意見発表があったことで、淀川水系の流域の広さを感じました。</p>
<p>上流・中流・下流それぞれの地域エゴむき出しの論議にあきあきした。しかし概して下流域住民の河川への思い、取り組みに同感を覚える。</p>
<p>3-1地域ノ歴史的古代カラ流域庶民カラ聞取スル事。 3-2上流琵琶部会、下流淀川部会等意見対立ガ男女関係研究スル事 問題ノ解決アル事。</p>
<p>発表者からの質問等にはリアルタイムで河川管理者が答えてあげるようにした方が良いのでは？</p>
<p>発表者の人選はなかなかむずかしいが計画内容の理解不足(説明不足でもある)のままの発言を感じる人があった。</p>
<p>・発表者の年齢が高く、また組織の理事長や局長という立場であり、若者討論会になっていないのでは。 ・.4と5の方のお話して、淀川の有する多面的価値が分っておもしろかった。河川の多様な価値を認め合い高め合うようにしていくことが望ましい。</p>
<p>本日の会は何の目的で何をしようとしているのかわからない。今日の意見をきいて、委員会としてどのように反映しようとしているのか今後の委員会、部会等の活動に注目したい。</p>
<p>余呉町長の話から高時川ダムのいきさつよくわかりました。コンサルで堆砂の検討していた時、知っておくべき事でした。 国交省や流域委員会は方針変更を行う際、地元はどう説明するのか第一に考えるべき。 天井川の切り下げを行っても、倒伏堰、地下水圧送、ため池等農業用水を確保する方法はある。内水河川ポンプが必要になる場合も行政は代替案をわかりやすく示すべき。</p>
<p>流域の各ステイクホルダーが一同に委員に入っておられ、よく配置されているようです。しかしテーマと議論が幅が広すぎて整理がしにくいのではないかと。もう少し回数を予定されているならテーマ整理をして仮結論が出るような進行はできないものだろうか？</p>

<p>Q4. 本日の会は、21世紀の社会の主演となるべき若い人たちから意見を伺うことを主眼において開催しました。若い人達からの意見聴取方法について、ご意見、ご提案等あれば、ご記入ください。</p>
<p>関西大の方がいったように大学に行くというのもいいかもしれません。</p>
<p>今日の発表者が「若者」といえるか。 委員会、部会に出席しておればわかるようなことがらを重大事のようにとり上げて言うのは発言者の選択がおかしいと考える。 発言要旨が理解できない発言させることこそ問題と思う。</p>
<p>実年齢ではなくていいですが、本来の若者の心を持った方が前向きな意見交換を出来るといいですね。</p>
<p>正直、若い人達は川で遊んだことが無いため、意見を集めることは難しいと思います。少なくとも若者の参加を求める場合、テーマをしぼった方が良いと考えます。</p>
<p>壮年の意見も聞いて欲しい</p>
<p>例えば下のQ5の集計から若い人達の水問題(ないし本委員会)への関心の度合いが分かると思いますが、一般傍聴者に参加する若い人のさらに増加することが切望されます。 そのためには委員会の開催により関心の増加を待つだけでなく、社会の構成グループへの働きかけを通じて積極的に一般の関心を喚起するべきものと考えます。その観点から本日の試行の会開催は適切なことと考えます。</p>
<p>土木・都市計画・環境の学生、第一次産業の後継者、開催地周辺住民にチラシ、ポスター。 若い人は他人の言うことを聞く、立場を考える、欠点も見ると良い視点を持っていると思いました。</p>
<p>なぜ若い人の出席が少ないのか。 理由を調査分析して欲しい。 大学等への集中広報対策が必要なのでは。</p>
<p>21世紀社会ノ主演ハ市民社会的ヲ建設ハ各市民発言ニ自己発言責任トハ何カラ指導者育成スル60才～100才マデ責任義務ガアル事。</p>
<p>21世紀を担う若い人を対象に開催することはいいことだと思います。しかし、今回は「若者討論会」とはいいながら「年齢制限は特に設けておりません」と言うことです。 年齢制限を設けないならば名前だけの「若者討論会」とすべきではないし、「若者討論会」とするからには、少なくとも事前に決めた意見発表者は若者にすべきです。また若者の意見を聞きたいならば委員の発言は控えるべきです。不必要な委員の発言も多かったように思います。最も若者の意見発表は無かったのですが、何のための若者討論会だったんでしょうね。</p>
<p>発表者も委員も顔ぶれをみると若い人といえない。本当に世代を考慮した進行になっているのだろうか。そうでなければ何も若いと うたうことはない。 若い人なら大学(含大学院)生の研究グループにもっと参加してもらおう工夫をしてはどうですか。</p>
<p>・発言者、若くない。 ・若者の意見を否定するならこんな会開くな！話しも先祖がどうのこうの、伊勢湾台風など、いつもどおりの発言。若者が思っていることを聞くという方向から外れてしまっていると思う。わざわざ遠くから来ていつも通りの発言だと来る価値があまりなかった。 せめて若者に発言させてほしい。 ・このような場に来る人は「地元がどうこうなので地元は何々をつくれ」という一方的な考えの人達ばかりだと思う。基本的な考え方が委員会と違うから仕方がないのだろうか？ ・川がきたないとよく言われますが、実際私は「川はきたないから近づくな」と教えられたほどです。そんな教育現場も問題であると最近わかりました。せっかく偉い先生方が集まっているのだから、整備計画だけでなく先生方が自分で教育委員会に働きかける。グランド問題に対して大阪市に働きかけるなどしてもらいたい。 ・清掃をする野球チーム、全く清掃をしないゴルフプレーヤー、ゴミを出さないように気をつけているホームレス。 みんな根本的には同じに思える。 「自分の土地は歴史があって、うんぬん…だからよろしくお願いします」そんな意見を言う人。自分とこだけが特別と言っているように思える。みんな自分の意見ばかりでやってきて、今の世の中があるのだから少しゆずりあえば、皆自然をよくしたいと思って集まっているのだからもっといい世界になると思う。</p>
<p>淀川花火大会でインタビュー。 淀川河川敷で散歩している人にインタビュー。</p>

Q4. 本日の会は、21世紀の社会の主役となるべき若い人たちから意見を伺うことを主眼において開催しました。若い人達からの意見聴取方法について、ご意見、ご提案等あれば、ご記入ください。

・レクリエーションや自然観察で子供達とともに活動しているNPO等の若者に声をかけて、活動を通じて考えていることを発表してもらったらどうか
・公募時に年齢制限をかけたかどうか
・カヌー等の川下りイベントと合わせて行ったらどうか

・若者から意見を聞いてどうするのか？
・今の社会に責任のある大人がしっかり議論して判断すればいいし、そうあるべきである。

若い方々からの意見や意識を聴取する方法といえますのは、大変難しい問題だと思います。川やダムに意識がなければなかなか若い人達から意見が出ないかと思えます。子供の頃からの川やダム・環境の意識を持ち、考え方を持たなければ意見は出てこないものだと感じます。まだ、このような取組みは始まったばかりのように思えます。あせらずじっくりがんばって下さいようお願い致します。

若い人がいなかった(発表者)

若い人からはやはり応募がないのですか。
こうした問題にまっとうな若い人が関心を持たないのは当然だと思います。やはり、おもしろくないと思います。年齢を重ねてこそ理解できるテーマではないでしょうか？こうした問題に関心をもつ若者(20代)は、むしろ社会性に欠けるバランスを欠いた人物が多いように思います。(経験に基づく感覚的な意見で恐縮です。)

若い人たちの意見がほしかったのに若い人に来てもらえなかったというなげきが聞かれたが当然であろう。若い人は遊ぶのは好きだが勉強は苦手だ。現在の若者にこういう社会問題に関心を向けさせることは至難の技である。いかに楽に面白く暮らせるか。金もうけが出来なければサラ金ローンで返済のあてもないのに借りる。こんな若者たちに期待する気はない。戦争法が通り自衛隊が海外の戦地に行かされる。この後は徴兵制が待っているというのに若者は知らん顔でせつな的に生きているのを見ても若い人の交流は無意味だと思うが反面可愛想な気もする。何も分っていないし分ろうともしていないのだから。

「若い人」に主眼は分るが、永年の経験者の意見が出やすくしてほしい。